

各事業所の福祉サービスを充実させるため、「勤務表プロ導入」「預り金管理方法見直し」「調剤薬局一元化」等法人事務局機能をさらに強化したほか各部において下記の通り取り組んだ。

I 総務部重点事項

(1) 理事会及び評議員会業務の効率化

理事会は、年4回の定例理事会を含め10回開催し、評議員会は定時評議員会のみ1回開催し、業務の効率化及び議案書の電子化に努めた。(開催日等の詳細については、理事会等開催状況頁参照)

議事録署名人の簡略化は、評議員会について全員署名から2名署名に定款変更を行った。

(2) 監事及び相談苦情解決第三者委員の役割充実

当年度は、役員改選時期であり、監事2名、第三者委員3名を5月～6月の評議員会、理事会で新たに選任した。

新監事及び新第三者委員から、年間を通じて積極的な指導・助言が多数あり、活性化につながった。

(3) 公益的な取組みの確立

10月に実施された「かごしまおもいやりネットワーク事業」研修会に参加した。コミュニティワーカー及び相談員を法人内で1名ずつ確立して、事業所に周知した。また、11月のJAZZ LIVE時に相談コーナーを設置して、地域住民の方々への周知も図った。

その他地域の大学生などが中心になって実行している「日曜学級療育キャンプ」への講師派遣やマイクロバスの貸出等も実施した。

(4) 情報公開等

定期的な情報公表制度等への公開は実施したが、公表システムを活用した業務効率化は、次年度以降の課題である。

(5) 就業規則他各種規程の周知促進

年度後半にPDF化し、役員等会議に提出。第10回理事会で改定された就業規則等の整理を行い、次年度5月以降に公開を予定している。

(6) その他

年度途中で公用車2台購入。(事務局公用車1台及び施設整備課用軽バン1台)

Ⅱ 企画部重点事項

(1) 「夢を語る会」から「夢を実現する会」へ名称変更、具体的な中期経営計画を策定する

吉田愛青園の日中サービス支援型グループホーム計画の実現（令和2年7月開所予定）や愛光園の重症心身障害児対象の放課後等デイサービス計画の実現（令和2年5月開所予定）など利用者の住環境改善や潜在的な在宅ニーズの掘り起こしを実施した。

また、持続可能な法人経営のため、吉野学園の放課後等デイサービスの定員見直し及び新たな事業所の開設や現報酬体系のなかでより収益を増やせる経営計画を検討した。

(2) 福祉サービスの充実を図るため、各種業務の見直しを行い、効率化を図り経費を節減する

①新たな倫理綱領の策定検討

他項目優先のため、検討に至らなかった。次年度以降、法人経営方針を含めて見直すこととする。

②事業実施に必要な「人員基準」策定検討

年度後半を中心に取り組んだ。各事業所の職種配置数の把握と指定基準上の配置数のすり合わせ実施したが、最終的には次年度に持越し、企画部最重要課題として年度前半を目途に確立することとする。

③総合支援法にふさわしい行事の見直し

各事業所事業計画ヒアリングを初めて実施した。（令和2年1月実施）
各事業所行事を俯瞰して、主に付添旅行の縮小と終日行事（夏祭り等）の縮小を求め、事業計画に反映させた。

④主に管理職を中心とする「業務分掌」「権限規定」の検討

年度当初に業務内容に関するアンケートを実施したが、その後推進できなかった。管理職員の異動も頻繁になってきたため、次年度の大きな課題の一つとなった。

⑤情報伝達手段の効率化

サイボウズの導入で情報伝達が大きく効率化された。次年度以降も、サイボウズのより効率的な活用をすすめる。

⑥広報のあり方

ホームページの充実を始め、法人初の求人特化パンフレットの作成など実施した。取組みにより、年度途中から求職者が増加して人員確保に大きくつながった。

⑦法人所有の遊休地活用検討

法人所有に限らず、様々な土地物件の検討を実施。その中で生活介護の充実等を目的として、事務局隣地の農地を購入（令和元年7月）した。

利用者送迎方法の見直し

ヤマトなど外部委託方式を検討したが、経費面等により外部委託の方向は見送ることとした。

⑧障害者法定雇用率の達成

雇用の受け皿としての「施設整備課」を令和元年9月に設立するが、雇用までは至らず。令和2年7月より、清掃部門での障害者雇用を計画中である。

⑨災害時非常物資の管理検討

中期計画とリンクさせた物資保管計画を検討したが、実施までは至らず。新型コロナウイルス対策時にも必要性があがったことより、次年度以降も検討が必要である。

Ⅲ 人事部重点事項

（１）労務管理体制の構築

① 新給与規程等に則った給与の支給
実施できた。

② 見直し後の人件費推移の点検

人事部での点検はできなかった。令和2年度に持ち越す。

③ 55歳役職定年制導入に向けた検討

すべての役職者が55歳以上であることから、実施には至らず。

今後60歳役職定年制導入に軌道修正して検討を進める。

（２）人材育成及び事業拡大の視点に立った各種研修の充実並びに人材確保

①人材育成を主眼とした各階層別研修（社労士等顧問を活用した外部講師研修）

②視野を広げることを主眼とした法人外出張研修

③法令及び社会情勢への迅速な対応を主眼とした管理職研修（ハラスメント問題等）
管理職研修として5月～2月まで計10回実施した。今後は形を変えて、主任級スキルアップ研修として企画部が行う。

④事業運営・拡大を主眼とした各種管理者（サビ管等）の資格取得研修

実施できなかった。新規事業については企画部と十分話し合う必要がある。

⑤採用計画の確立とより意欲を高められる人事考課の確立（評価規程の整備）
企画部により、人事考課制度はできているが、採用計画は来年度の課題とする。

(3) 「働き方改革関連法」等に沿った法人内取組みの実施

①年休5日取得義務化への対応

実施できた。付与から6か月経過時の年休取得状況点検及び取得が進んでいない職員への時季指定が課題である。

②産業医の役割及び衛生委員会の強化への対応

産業医委託業務については確立した。メンタルヘルスチェックの時期の統一及び実施機関(現ヘルスサポートセンター)との窓口の一本化は完了した。

③常態的時間外勤務の内容点検及びその減少策に対する支援

一部実施できた。勤怠管理を事務局で行うことで、内容の点検ができ、各事業所に修正を促した。しかし超勤の内容については、決裁されているものに対して言及することができなかった。

残業代を切り上げ切り捨てすることなく15分単位で支給する方針を出した。

④子育て応援企業への登録、障害者雇用等各種雇用助成金の活用

鹿児島県、鹿児島市の子育て応援企業への登録完了。

助成金の活用は実施できなかった。来年度の課題である。

(4) 労務事務の効率化

①人事部の係分担の確立 常勤4人体制の確立(労務2人、人事総務2人)

係分担については確立した。常勤4人体制の内訳については軌道修正して確立した。

②給与明細のWEB化(スマートフォンやパソコンへの配信)

実施できた。

③労務手続きの電子申請処理の実施(社会保険・雇用保険・退職共済)

実施できた。

④労働保険、雇用保険の事業所一元化

実施できた。令和元年10月10日付で一括適用完了

⑤勤怠管理の事務局集中化(事業所の負担軽減)

勤務表プロの導入により集中化は実施できたが、まだ課題が多く事業所の負担軽減までにまで至っていない。勤務表担当者との会議の実施。マニュアル作成の準備までは整った。

⑥昇給時期の統一に向けた検討

来年度から年2回にすることで実施できた。

IV 経理部

(1) IT化の推進・厳正化

① E-TAX（所得税等）／L-TAX（地方税等）の利用促進・定着化

E-TAX（所得税等）は平成30年11月分から、L-TAX（地方税等）は平成30年12月から開始、令和元年度に新取扱いの利用促進定着化（電子化）は完了。

② FB（鹿児島銀行）／FX4／PX4（TKC）の高度化利用促進

FB—事業未払金の事務局集中処理完了・FX4／PX4（TKC）—FX4は8割程完了。PX4は常勤換算利用未済。

③ ID/パスワード等の登録・変更手続きの事務局管理

職員の退職・異動に伴う解約・変更、昇格に伴うグループ変更、新規採用に伴うID/パスワード管理は、全て事務局へ移行完了。ID/パスワードは金庫室保管。

(2) 予算・決算事務の事務局（経理）管理強化

① 予算（含む補正）・決算の適正執行（乖離金額低減）

平成30年度及び令和元年度分から事務局で計数を点検、予算と決算の乖離低減を行った。（法人全体乖離金額：平成30年度784千円 令和元年度：7,507千円）
※令和元年度の乖離が大きくなった理由 ⇒A事業所の事業収入（訓練等給付費）及び事務費（福利厚生費）の桁違いが主要因。

② 予算・決算事務の事務局への一部移行・集中化処理

平成30年度から決算書作成は原則事務局で行い、令和元年度は定時評議員会迄の決算工程表を各事業所の担当者へ説明、その取扱いをさらに進化させた。（固定資産登録・減価償却・賞与引当金等は事務局で処理、付属明細作成迄行う）

③ 各事業所別予算（人件費/研修研究費等）作成方法の検討

人件費は、採用・退職者情報を基に事務局で人件費予算は作成。
固定資産取得等は、各事業所から年度の予定内容を報告、法人全体分を作成。

(3) 経理事務の効率化・簡素化・厳正化

① ワンストップ処理導入・試行・拡大

伺い書・仕訳入力・振込（支払）・予算管理の4工程のワンストップ化。

振込手数料負担表示でTKCシステムの問題が発覚、現在ワンストップ化は保留。

② 事務局へ所定の申請書送付及び契約締結事務等の定着化・厳正化

申請書送付・契約締結については定着化完了。不備については都度対応中。

③ 預り金管理方法事務見直しによる負担軽減・厳正化

立替金/仮払金FBによるK-NET引去り・上限金額設定・取扱状況点検 令和元年10月～導入、定着化はしているが間違い防止のチェック表作成中。

④公用車「コーポレート給油カード（JCB）」導入による経理事務効率化

支払い・集計窓口一本化

事務局にてカード購入内容をチェック・支払は一本化・負担金は月1回の資金移動。

⑤小口現金等の預入・払出（補充）方法見直し検討

事業所預金通帳及び印鑑は事務局管理へ移行、預金通帳の印鑑も改印一本化完了。銀行への訪問（払出・預入・通帳記帳）は、事務局へ集中させ一元化を実現、事務経費削減を図った。

（４）事務職員の事務水準向上

①社会福法人経理知識の平準化（皆が同じレベルになるために）

「新会計基準」に準拠したテキストに基づき学習会を計画的に実施する。

計画的な勉強会は実施できなかったが、不足分は都度教育で補った。

②各事業所事務職員「1人2役体制」作りの支援を行う。

1人2役体制を指向したが、事業所担当者の意識変革迄出来ず、方法の見直しが今後必要と思われる。

令和2年度は、経験年数を考慮、具体的に事務局から2役の担当業務を指定する方式も検討する。

以上

令和元年度法人理事会及び評議員会開催状況並びに監事監査等実施状況

令和2年度第1回理事会

令和2年5月21日（木）

1 法人理事会及び評議員会の開催状況と議案等は、次のとおりです。

開催年月日	議案等
<p>第1回理事会 令和元年5月 23日 (パピー保育園)</p>	<p>(議案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 愛光園拠点人件費資産取崩(案) 2. 令和元年度第一次補正予算(案) 3. 平成30年度事業報告(案) 4. 平成30年度決算(案) 5. 社会福祉法人青鳥会評議員選任候補者(案) 6. 社会福祉法人青鳥会評議員選任・解任委員会開催日(案) 7. 社会福祉法人青鳥会理事・監事の選任候補者(案) 8. 社会福祉法人青鳥会定款の改正(案) 9. 社会福祉法人青鳥会役員等報酬等支給基準の改正(案) 10. 社会福祉法人青鳥会理事及び監事の報酬等の額についての改正(案) 11. 令和元年度定時評議員会開催日時及び開催場所並びに提案議案等(案) 12. 社会福祉法人青鳥会福祉サービスに関する相談・苦情解決第三者委員の選任(案) 13. 社会福祉法人青鳥会役員等報酬及び費用弁償に関する規程の改正(案) 14. 社会福祉法人青鳥会就業規則の一部改正(案) 15. 社会福祉法人青鳥会給与規程の一部改正(案) 16. 社会福祉法人青鳥会経理規程の一部改正(案) 17. 社会福祉法人青鳥会放課後等デイサービス事業所なのはな運営規程改正(案) 18. 社会福祉法人青鳥会放課後等デイサービス事業所ぱぷりか運営規程改正(案) <p>(報告案件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度社会福祉充実残額(案) 2. 放課後等デイサービス事業所ぱぷりかの近況について
<p>定時評議員会 令和元年6月 13日 (パピー保育園)</p>	<p>(議案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録(案) 2. 社会福祉法人青鳥会役員を選任(案) 3. 社会福祉法人青鳥会定款改正(案) 4. 社会福祉法人青鳥会役員等報酬等支給基準の改正(案) 5. 社会福祉法人青鳥会理事及び監事の報酬等の額の改正(案) <p>(報告案件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度事業報告 2. 平成30年度社会福祉充実残額 3. 放課後等デイサービスぱぷりかについて

開催年月日	議案等
第2回理事会 令和元年6月 13日 (パピー保育園)	(議案) 1. 理事長選定(案) 2. 常務理事並びに業務執行理事選定(案) 3. 評議員選任・解任委員会委員選定(案) 4. 令和元年度第二次補正予算(案) 5. 社会福祉法人青鳥会旅費規程の一部改正(案) 6. 社会福祉法人青鳥会資格取得貸付資金規程一部改正(案) (報告案件) 1. 理事長及び業務執行理事の業務報告 2. 放課後等デイサービス事業所ぱぷりかについて
第3回理事会 令和元年6月 27日 (パピー保育園)	(議案) 1. 令和元年度第三次補正予算(案) 2. 社会福祉法人青鳥会障害者支援施設あおいとりの空調設備更新工事に係る請負業者の選定(案)及び入札立会人(案)の決定 3. 社会福祉法人青鳥会指定短期入所事業所吉野学園運営規程の一部改正(案)
第4回理事会 令和元年7月1 1日 (パピー保育園)	(報告案件) 1. 障害者支援施設あおいとりの空等設備更新工事に係る入札結果について (議案) 1. 令和元年度第四次補正予算(案) 2. 障害者支援施設あおいとりの空調設備更新工事に係る工事請負契約(案) 3. 農地購入(案)
第5回理事会 令和元年9月3 0日 (パピー保育園)	(議案) 1. 給与規程の一部改正(案)(処遇改善特定加算関係) 2. パピー保育園運営規程の一部改正(案) 3. 令和元年度第五次補正予算(案) (報告案件) 1. 理事長及び業務執行理事の業務報告 2. 愛光園新規事業の実施について
第6回理事会 令和元年10月 10日 (パピー保育園)	(報告案件) 1. 吉田愛青園グループホーム事業計画 (議案) 1. 令和元年度第六次補正予算(案) 2. 吉田愛青園グループホーム新設工事に係る入札及び立会人(案)
第7回理事会 令和元年11月 14日 (パピー保育園) 次頁へ続く	(報告案件) 1. 社会福祉法人青鳥会吉田愛青園グループホーム新築工事に係る入札結果報告 2. 障害者支援施設吉田愛青園エレベーター整備報告 3. 障害者支援施設吉田愛青園空調整備報告 4. 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画策定報告

	<p>(議案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度第七次補正予算(案) 2. 社会福祉法人青鳥会吉田愛青園グループホーム新設工事に係る工事請負契約(案) 3. 社会福祉法人青鳥会借上げ住宅管理規程(案)
<p>第8回理事会 令和元年12月 18日 (パピー保育園)</p>	<p>(議案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度第八次補正予算(案) 2. 社会福祉法人青鳥会文書取扱規則(案)(旧文書取扱規則の廃止案) 3. 社会福祉法人青鳥会慶弔規程の一部改正(案) <p>(報告案件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理事長及び業務執行理事の業務報告 2. 吉田愛青園グループホーム整備 3. 愛光園新規事業の進捗
<p>第9回理事会 令和2年2月 13日 (パピー保育園)</p>	<p>(議案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 愛光園重症心身障害児放課後等デイサービス事業運営規程(案) 2. 社会福祉法人青鳥会育児・介護休業等に関する規程の一部改正(案) 3. 社会福祉法人青鳥会ハラスメント防止規程(旧セクシャルハラスメント及びパワーハラスメント、マタニティ・パタニティハラスメント防止並びに相談・苦情処理に関する規則の廃止)(案) <p>(報告案件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 吉田愛青園エレベーター工事 2. 令和元年度指導監査及び実地指導結果報告
<p>第10回理事会 令和2年3月19日 (パピー保育園)</p> <p>次頁へ続く</p>	<p>(議案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 吉野学園(児童)・愛光園における不良債権処理(案) 2. 人件費積立・施設整備積立(案) 3. 令和元年度第九次補正予算(案) 4. 経理規程の一部改正(案) 5. 就業規則の一部改正(案) 6. 準職員就業規則の一部改正(案) 7. パートタイム職員就業規則の一部改正(案) 8. 再雇用職員就業規則の一部改正(案) 9. 特定職員就業規則の一部改正(案) 10. 給与規程の一部改正(案) 11. 旅費規程の一部改正(案) 12. 公印・施設長公印取扱規則の一部改正(案) 13. 令和2年度事業計画(案) 14. 人件費積立・施設整備積立の取崩し(案) 15. 令和2年度当初予算(案) 16. 吉田愛青園エレベーター新設工事(案) 17. 吉田愛青園グループホーム運営規程(案) 18. 吉野学園運営規程の一部改正(案) 19. 愛光園等運営規程の一部改正(案)

	20. あおいとり等運営規程の一部改正（案） 21. ほほえみ等運営規程の一部改正（案） 22. パピー保育園運営規程の一部改正（案） （報告案件） 1. 理事長及び業務執行理事の業務報告
--	--

2. 監事監査の実施状況は次のとおりです。

実施年月日	実施事業所
令和元年5月13日	吉田愛青園・愛光園
令和元年5月14日	吉野学園・ほほえみ
令和元年5月15日	あおいとり・パピー保育園・事務局

3. 評議員選任・解任委員会の実施状況は次のとおりです。

実施年月日	内容
令和元年5月29日	1名を選任する。

令和元年度行事等実施状況

	業務・行事等	研修・会議等
4月		新任職員研修（1～2日）
5月	監事監査（13～15日） 第1回理事会（23日） 評議員選任・解任委員会（29日）	サビ管等会議（15日） 防犯研修（21日）
6月	ぱぷりか開所（1日） 定時評議員会（13日） 第2回理事会（13日） 第3回理事会（27日）	サビ管等会議（6日） アンガーマネジメント研修（19日） 栄養士会（27日）
7月	第4回理事会（11日）	
8月		
9月	JOBFAIR（就職説明会）（14日） 第5回理事会（30日）	サビ管等会議（11日）
10月	第6回理事会（10日） 相談苦情解決委員会（18日）	看護師会（2日） 所在不明防止対策委員会（2日） 県外法人給食部門見学（23日） サビ管等会議（25日）
11月	JAZZLIVE（公益的取組）（9日） 総合防災訓練（11日） 第7回理事会（14日） 合同忘年会（29日）	所在不明防止対策委員会（12日）
12月	第8回理事会（18日）	所在不明防止対策委員会（19日）
1月		
2月	第9回理事会（13日） R2事業計画ヒアリング（14日・20日）	サビ管等会議（12日） 看護師会（18日）
3月	コロナ休校対策（職員の子供の受入） （3～25日） 第10回理事会（19日）	

月例 役員等会議（毎月第1金曜日）
施設長会（毎月第3月曜日）
事務局職員会議（毎月第3木曜日）※8月より実施
事業所事務員定例会（月2回）
管理職等研修（年間10回）

1. はじめに

法人事業計画に基づき、下記の重点目標を掲げ、事業を実施した。

- ・誰もが人として尊重され、あたりまえに暮らせる社会づくりを目指すために、職員一人ひとりの専門性を高め、質の高いサービスを提供します。
- ・障害者・児の権利、人権を重視した支援を行います。
- ・利用者本人や家族の意向をふまえた支援を念頭に、家族、学校及び関係機関と緊密な連携を図り、“個別支援”を意識していきます。

6月には、放課後等デイサービスの二つ目の拠点「ばぶりか」を開設した。併せて一つ目の拠点「なのはな」の定員を10名に変更した。また、短期入所の定員を7月に1名増員した。

2. 事業別実績

事業名	平成31年度				平成30年度				(日、千円、%)	
	延べ日数	公費請求	利用料	合計	延べ日数	公費請求	利用料	合計	前年度比	金額
生活介護(30)	7,223	99,604	830	100,434	7,144	97,785	824	98,609	101%	102%
施設入所支援(20)	7,597	44,073	14,920	58,993	7,602	44,264	11,778	56,042	100%	105%
障害児入所施設(10)	2,766	41,310	848	42,158	2,768	42,575	423	42,998	100%	98%
共同生活援助(9)	3,004	28,309	4,994	33,302	2,960	27,059	4,281	31,340	101%	106%
短期入所(6)	2,404	19,871	2,066	21,937	1,861	15,765	1,688	17,453	129%	126%
GEN短期入所(1)	183	1,332	116	1,448	143	1,103	82	1,185	128%	122%
放課後等デイなのはな(10)	2,734	21,435	199	21,634	4,362	28,920	194	29,114	63%	74%
放課後等デイばぶりか(10)	1,691	14,245	124	14,369						
日中一時支援	3,783	4,149	123	4,272	3,530	4,460	527	4,987	107%	86%
措置費						11,910		11,910		0%

※実績数は国保連請求及び利用料請求、延べ利用数

3. 重点目標への取り組み

(1) サービスの質の向上

- ①生活介護、施設入所支援、障害児入所施設の各事業に配置したサビ管及び児発管並びに主任を中心に、全職員による支援体制を確立し、「切れ目のない支援」に努めたが、高等部卒業生の移行先についてスムーズにできなかった。また、利用者一人ひとりの面談を強化し、意思決定を尊重した支援を行った。
- ②成人の利用者には、日中活動(はたらく・たのしむ)と、夜間支援(くらす)によるメリハリのある生活リズムを組み立てた。日中活動では、季節や行事に合わせた制作作業や、年度後半からは法人の共同農地の活用などの充実を図った。
児童の利用者には、家庭・学校との連携を深め、共感しながら一人ひとりの育ちを支援した。心理担当職員が配置できない時期があったが、コミュニケーションに努め、利用者の心のケアを行った。
- ③利用者の豊かな生活を支える上で、通所(短期入所・日中一時支援・放課後等デイサービス)利用者も含めて家族の要望や相談に応え、暮らしを支える支援を行った。
- ④本人および家族との面談や相談支援事業所との連携の中で、本人や家族の想いを確認し、幅広いニーズに応えられるよう努め、個別支援計画に反映させた。
- ⑤利用家族(入所・通所共)や後見人等によるサービスに関する評価を行い、サービスの質の向上、業務改善に役立てた。

(2) 職員の人材確保と育成

- ①利用者の障害特性、状態像に応じた適切な対応が図られる（＝利用者を総合的に支援できる力を高められる）ように階層別（習熟度別）の研修を行い、人材の育成強化に努めた。また、対人援助サービスの基本姿勢（社会通念上のルールやマナー）も人材育成の要素として、全体職員会議等で研修を行った。
- ②人権チェックリストに基づく、自己評価を年2回行い、全体職員会で振り返りを行った。また、人権擁護に関する標語を掲示し、職員の意識の向上に努めた。その他、外部や法人本部の開催する人権研修にも参加し、各自の階層や能力に応じた学びの機会を増やした。
- ③自己申告書や勤務評定をもとに施設長の面談を行い、メンタルヘルスチェックの内容も踏まえながら、職員一人ひとりの個性や能力に応じた指導・育成を行った。
- ④法人の理念や基本方針を一人ひとりの職員が自覚できるよう、法人理念を職員室に掲示するとともに、全体職員会議の中で周知を行ない、同じ目標に向かって共に歩めるような風通しのより良い職場環境作りや職員関係の構築に努めた。
- ⑤保育士・福祉職員養成校と連携し、実習等を通して障害福祉に対する理解と啓蒙の機会を拡げ、延いては優秀な人材確保へ繋がられるよう努めた。

(3) 経営基盤の強化

- ①実施事業定員充足のため、チラシやパンフレットの作成、事業所説明会への参加等、対外的アピールを行ったが、定員を満たすには至らなかった。また、送迎サービスについても検討を行ったが、職員体制の都合上実施できなかった。
- ②職員体制の関係で1カ月遅れとなったが、6月に放課後等デイサービス「ぱぷりか」を開設し、これにより定員20名を10名ずつの二つの事業所に分け、これまで以上に利用者の状態像やニーズに合わせた支援を提供できるようになった。また、生活介護については原則の日数の関係で定員を満たせない事から、定員変更を検討した。
- ③相談支援事業所と連携しながら、利用者の幼児期、児童期から成人期への結びつきを大切に利用者一人ひとりのライフステージに応じた支援に取り組み、ほほえみの児童発達支援からの利用もあった。障害児入所施設での高等部卒業生の進路について、当初の予定通りに進まなかったケースがあったため、今後はさらに学校や相談支援事業所等との連携を強化し、早めに体験や実習を組んでいく必要がある。

(4) 危機管理（リスクマネジメント）

- ①放課後等デイサービスでの利用者一時不明案件があり、職員全体で再発防止に向けた振り返りの研修を行った。また、緊急時の連絡手段として安心安全メールを導入した。
- ②利用者の安全・安心を支えるために、防災計画に基づく火災訓練を各事業で実施した。また、自然災害も含めた防災への意識向上、取り組みの強化を行った。
- ③施設でできること、受け入れられる内容を冷静に判断し、専門機関との連携を取りながら解決に取り組んだ。第三者委員の立ち合いを求める苦情申し立てがあったが、第三者委員会や所轄庁の助言・指導により解決に努めた。

(5) 地域と共に歩む運営

- ①障害福祉に対する理解と啓蒙の機会と位置付け、実習生、ボランティア、見学者を積極的に受入れた。
- ②吉野社協（さんさん会）活動を通して地域社会の福祉資源の役割を果たせるよう努めた。また、日曜学級の活動への協力をを行った。

(6) 施設・設備等の整備

- ① 結露対策として各棟の除湿エアコンの使用や、除湿器の使用、スリップ防止のためのマット導入を行った。また、除菌消臭のためのエアクローバーを導入し、快適な住環境の維持に努めた。
- ② 壁面や破損個所については適宜修繕を行い、破損防止に向け対策を行った。その他、電気設備や汚水処理個所についても、必要に応じて修繕を行った。

4. 事業別実績と支援状況

- ① 生活介護（定員：30名）
 - ・施設入所支援から19名、グループホームから8名、通所1名の受け入れを行なった。
 - ・歩行活動と作業活動で一人ひとりにあったグループ編成を行ない、それぞれが持てる力を発揮できるよう努めた。
 - ・クッキング活動やピクニック等の特別活動やリハビリや機能維持、機能訓練等の活動も取り入れた。
- ② 施設入所支援（定員：20名）
 - ・行事やイベント、夜や週末の余暇時間の充実を図り、利用者の意見や希望を取り入れながら楽しみのもてる生活環境作りに努めた。
 - ・「やむを得ない事情」による入所者が1名おり、定員超過の状態である。
- ③ 障害児入所支援（定員10名）
 - ・安定した育ちの場を提供できるように、学校との連携を密に行い、将来を見据えた支援に努めた。
 - ・鹿児島養護学校の高等部卒業生3名の進路について、進路検討委員会を中心に協議を重ねてきた。1名は受け皿が見つからず児童入所を延期することになり、2名は最後まで進路先の決定が難航した。
 - ・次年度も4名の高等部卒業生が控えているため、学校や相談支援事業所との連携、新しい受け皿の新設も含めて検討が必要である。
 - ・前年度までに退所された利用者からの相談にも応じ、退所後の丁寧なフォローを行なった。
- ④ 短期入所（定員：6名）・GEN短期入所（定員：1名）
 - ・利用者それぞれの状態像に応じた支援を行ない、安全に落ち着いて過ごせるような環境作りに努めた。
 - ・自宅での養育困難や養護性の高い児童の問い合わせが増えており、7月より短期入所定員を1名増やしてニーズに応えてきた。現在でも、利用問い合わせや希望が多く、その調整に苦慮している。
- ⑤ 日中一時支援
 - ・利用者それぞれの状態像に応じた支援を行ない、安全に落ち着いて過ごせるような環境作りに努めた。
 - ・朝の利用（登校前～登校まで）の希望が増えたため、受け入れ態勢を整えている。
- ⑥ 放課後等デイサービスなのはな（定員：20名→7月より10名）・ぱぷりか（定員：10名・6月開設）
 - ・小学校1年から高等部3年までの養護学校や地域の学校の児童を受け入れ、安全を念頭に室内での遊びや製作活動、屋外での体を動かす活動等を提供した。
 - ・「家族のつどい」を2回実施し、勉強会や懇親会を通じて、保護者との連携に努めた。
 - ・利用者の年齢や障害特性等のニーズに応じて編成を行い、二つの拠点でそれぞれの利用者に応じたサービス提供を行った。

⑦ グループホームGEN（共同生活援助）

- ・地域の中で、家庭的な雰囲気の暮らしを提供できるように努めた。
- ・世話人も含めて献立の見直しを行い、利用者それぞれに適した食事提供ができた。
- ・人権や自己決定を尊重した支援に努め、近所のスーパーや地域の社会資源を活用する機会を増やし、暮らしの充実を図った。

5. 給食サービス

- ・給食では旬の食材を取り入れ、変化に富んだ献立を作成し、行事食では四季折々のものを提供した。嗜好調査等で日々の摂取状況を把握し、給食委員会を定期的で開催し、豊かな食生活の提供に努めた。
- ・医療と給食が連携を図り、それぞれの健康状態や体調に応じた食事の提供に努めた。

6. 看護・医療的ケア

- ・医療では看護師2名体制を確立し、マニュアルの整備、チェック体制の強化を図り、利用者の健康管理に努めた。
- ・1月より調剤薬局の一元化を行った。それまでの薬局では出来ていたことが出来なくなったことが多く、不都合が生じている。
- ・感染症の流行時期には、園内感染症研修を実施した。また、マニュアルに基づいて消毒や手洗いうがいに努め、インフルエンザや嘔吐下痢症の感染を抑えることができた。

7. 職員体制

職種	正規職員数		非常勤職員数		備考
	R2.4.1	H31.4.1	R2.4.1	H31.4.1	
園長	1	1			
副園長	1	1			
支援課長	1	1（兼）			
事務職員	3	3			
看護師	2	2			
栄養士	1	1			
サービス管理責任者	1	1（兼）			
児童発達支援管理責任者	3	3			
児童指導員（入所）	6	5			
児童指導員（放デイ）	4	4	5	2	
生活支援員（入所）	10	12			
生活支援員（GH）	4	4			
日中支援員			4	3	
支援補助員			2	3	
世話人			3	3	
夜勤専任職員			3	3	
合計	37	37	17	14	

8. 相談・苦情・要望等

○苦情・相談要望

区分	件数	内容等
苦情	11	職員対応に関して、説明・連絡不足、薬の持たせ間違いなど
相談要望	48	利用希望相談、空き状況確認、その他サービスに関する要望など

○事故・危機管理

区分	件数	内容等
事故	23	他傷による怪我・通院、薬のセットミス・落錠、転倒など
インシデント	76	ご家族との連携ミス(持たせ忘れ・散髪忘れ)、物損、異物混入など

9. 事故・危機管理等

- ・法人や外部の防犯研修にも参加し、防犯意識を高める取り組みを行った。
- ・人権擁護安全委員会を中心に、ひやりはっと・インシデント・事故について毎月振り返りを行い、再発防止に努めた。
- ・利用者の一時的行方不明事故を受けて、法人内でも対策会議を開き、検索カードの作成や検索訓練に向けた準備を行った。

10. 地域との交流

- ・地域の方への敷地利用の貸し出し、近隣の清掃や草払い等を行った。

11. 家族・後見人との交流

- ・家族会総会や家族との懇親会、家族との研修、とれとれ祭りや夏祭り・クリスマス会の行事などを通じて親睦を深めた。

12. 情報公開

- ・ホームページ、Facebook、吉野学園便り（毎月発行）、WAM-Net の障害福祉サービス等情報検索システムへの登録等、情報公開を行なった。

平成31年度 年間行事及び研修報告(案)

2020.4.10吉野学園

月	業務・行事			研 修
4	花見遠足(3)	人権擁護安全委員会	鹿養入学式(9)	法人新任職員研修(1~2)
	家族会総会(21)		施設親善球技大会(27)	
5		保健委員会	鹿養大運動会(25)	社協新任職員研修(社協2 1~22・協会30~31) 法人防犯研修(21)
6	成人部旅行(18~19)	拡大運営委員会	BoonBoonFesta(22)	法人役職員等会議(19)
7	成人部旅行(11~12)	給食委員会		
	利用者職員健康診断(10)			
	夏祭り(28)			
8	総合防災訓練(28)	進路検討会		安全運転管理者研修(29) 感染症講習(9) 人権擁護研修(8) 園内KY研修 カウンセリング研修(5~6)
9	十五夜相撲大会(29)	保健委員会		相談支援従事者研修(3~4) 給食従事者研修(10) 強度行動障害研修(2~3・23~24)
	GEN旅行(27)	人権擁護安全委員会		
10	登山	拡大運営委員会		強度行動障害研修(3~4・16~17) 全国大会鹿児島(22~24)
	嗜好品調査			
	成人部旅行(17~18)			
11	とれとれ祭り(10)	給食委員会	鹿養学習発表会(17)	強度行動障害研修(5~6) 園内感染症研修
	インフルエンザ予防接種(16)			
	成人部旅行(14~15)			
12	クリスマス会(15)	進路検討会		施設長等研修(11) 強度行動障害研修(9~10)
	忘年会(20) 餅つき(26)			
	成人部旅行(12~13)			
1	夜勤職員健康診断(17)	保健委員会	新成人を祝う会(10)	家族及施設職員研修(18~19) 権利擁護虐待防止研修(9) 園内階層別研修
			KAYOフェスタ(24)	
2	節分(2)	人権擁護安全委員会		GH事業所研修 サビ管研修(12~25) 園内人権擁護研修 法人会計研修(4)
	利用者健康診断(13)	進路検討会		
3	ひな祭り(1)	給食委員会	鹿養卒業式(18)	
	総合防災訓練(25)			
毎月	バイタルチェック 退養訓練	全体職員会 運営委員会		法人役職員等会議

社会福祉法人青島会 吉野学園

1. 基本方針

R元年度事業計画の「基本方針(7)」と「重点目標(8)」に基づき、以下のとおり事業を実施した。

基本方針(7)「2019愛光園テーマ」を館内各部署(5か所)に掲示し、朝礼で唱和(週1)し周知した。

2019 愛光園テーマ

- 接遇マナーで選ばれる事業所
- しっかりした医療サポートのある事業所
- ノーリフティングケアをすすめている事業所
- 魅力ある日中活動が楽しめる事業所
- 緊急時に頼りになる事業所
- 事故・災害への備えのある事業所
- 医療的ケアの必要な子どもたちの放課後等デイ創設

2. 実施事業

以下の5事業を実施し、新規事業(1)の開設準備をすすめた。

①施設入所支援(50名) ②生活介護(60名) ③短期入所(5名)④共同生活援助(4名) ⑤日中一時支援

⑥重心「放課後等デイサービス『メロディ♪』(定員5名)」開設準備室を設置(22回開催) R2年5月1日開始予定である。

○事業別実績比較表

事業名	令和元年度実績		平成30年度実績		前年度比	
	延べ利用 日数(日)	金額 (千円)	延べ利用 日数(日)	金額 (千円)	日数 (%)	金額 (%)
施設入所支援	16,758	79,616	17,388	80,621	96.4	98.8
生活介護	14,437	188,699	14,132	187,895	102.2	100.4
短期入所	1,087	8,661	686	5,963	158.5	145.2
共同生活援助	1,389	12,281	1,150	10,186	120.8	120.6
合計	33,671	289,344	33,356	284,727	100.9	101.6

3. 令和元年度の重点目標ととりくみについて

(1) 接遇マナーの徹底

①朝礼で、園理念「ほほえみと信頼のこころ」の唱和(週4)を実施し周知した。

②接遇マナー研修(週1回)を実施し、定着改善を図った。

③朝のミーティングで「今日も一日よろしくお願ひします！」と挨拶を交わし、気持ちを一つにスタートすることが定着した。

(2) サービスの質の向上

①ケアガイドライン(身障協)にもとづき、「三大介護」スキルアップを重点に取り組みをすすめた。

②食事介助～歯医の「嚥下診断」にもとづき(看護師)／食事形態(栄養士)／介助方法・食事介助専用椅子整備(食事ケア推進チーム)／ブラッシングスキル研修・水嗽(口腔ケアチーム)一体となったサービス向上を推進している。

③オムツ研修会(業者講師)を連続開催し(4月～7月)、男性用オムツ介助スキル&商品見直しなどを実施した。

④ノーリフティング研修会開催(推進団体から外部講師9.18)し、床走行式に加えて、浴室天井走行リフトを導入、11～12月の実技研修をへて1月より実施した。

⑤日中活動充実～陶芸実技研修(8月1名)／法人農園への活用案提出した。

⑥当事者体験(キャップハンディ/4～9月/9名)「ご利用者側から見た介護」の体験研修を実施した。

⑦朝礼時のミニ研修(5分間)で各推進チームがチューターとなり(介護の基本スキル/パイスティックの原則/医療知識/口腔嚥下など)の研修を実施し、互いに介護の基礎スキル、専門性を高め合うとりくみとなりつつある。

⑧人権擁護「自己チェック」実施(11月)し結果報告を行ったが、改善の具体化は、週ミニ研修にとどまった。

(3) 人材確保と定着・育成

- ①▼退職－5名～生支(－3)看護(－1)事務(－1)▼異動～生支(－2)看(－1)▼出向(生支－1)6月▽産休(－1)6月
▽採用＋8名～生支(補2新2)看護(補1)事務(補1)▽新規事業～看護(増1)PT(増1)▽異動～生支(＋3)
- ②法人「JOBFAIR 9.14」企画／「就職ガイダンス」で、愛光園の実習生、実習校とのつながりが、参加者確保につながった。
- ③「基準人員」の検討・確定の中で「業務体制のシミュレーション」にとりくみ、人材確保数と業務改善点を明らかにした。
- ④実習生受入の充実と福祉機器導入等が、二年連続複数名の専門学校からの新卒採用／施設見学からの採用につながった。

①福祉機器の導入推進

- ①床走行式(新任・異動職員の見極め研修) 4～7月実施／ポジショニング・ボード・シート・グローブは十分推進できず。
- ②天井走行式リフト県外見学 5.22 浴室・脱衣場へ導入11月 実施1月／更なる活用・定着が課題である。
- ③ノーリフト外部講師研修会開催(9月)し、他法人・法人内他事業所職員を含む参加(16名)があった。
- ④eAT(電子支援技術)研修4月／実施2人6月～中断

②管理者像と能力、実務基準設定

- ①管理職像・能力・実務基準設定
- ②主任会での「コーチング理論」研修6回／推進「育成チーム」によるミニ研修(6回)実施した。
- ③ファシリテーター研修への参加(1名／5月)

③職種、職責の明確化、組織体制の充実強化

職名	正規職員	準職員	計
参事	1	0	1
施設長	1	0	1
事務長	1	0	1
支援課長	1	0	1
サービス管理責任者	2	0	2
主任生活支援員	4	0	4
生活支援員	24	9	33
看護師	4	0	4
栄養士	1	0	1
機能訓練士	1	0	1
事務員	2	1	3
夜勤 (GH)	0	2	2
合計	42	12	54

○職員体制 (R2.3.31現在)
※ GH 職員を含む。

- ①主任役割(部下明確化／勤怠管理／提出物チェック／支援スキル)～現場での支援への指導力の強化が課題である。
- ②支援課打合・事務打合(週定例～随時)実施されたが、支援部門の主任の参加／事務部門の定例打合せが必要である。
- ③事務部会(業務見直 4月～6月開催) 医務部会(5～6月通院計画・往診・重心医療／2～3月 新体制 コロナ対策)
- ④8つの推進チーム(接遇・ノーリフト・口腔・食事・eAT・職員育成・働き方)での業務の改善・推進をすすめた。
- ⑤組織体制の充実・強化／業務分掌
- ⑥会議のあり方について、全体朝礼&支援部門ミーティング開催とご利用者ラジオ体操・朝礼の流れが定着し、業務予定、指示事項の周知、ご利用者の情報等の共有化、週ミニ研修の定着、理念・年度テーマの唱和による一体感につながっている。

(4) 経営基盤の強化

①安定した事業運営／稼働率100%

- ①施入92.7％／生介 87.8％／短期入所 58.2％／GH 94.8％
- ②退所 8名／入所 6名／空床日数 299日

(施設入所支援)

- ①退所者 8名(病院 6 他事業所 0 在宅 0 死去 2)
- ②入所者 6名(病院 2 他事業所 0 在宅 2 法人内 2)
- ③入院者 75名(対前年－2名)入院日数1,209日(対前年＋102日)

※長期入院を減へ向け、病院・ご家族・事業所との検討の設定に努め／高齢化も含め予後の医療ケアの度合に対応できる次のケアの場への移行をすすめてきたが、年度末の複数の要因による状況への適切な対応ができず、入院日数増となった。

(生活介護・短期入所・日中一時支援・緊急一時保護)

- ①ほほえみ相支との連携から入所 2名
- ②学齢児・青年(ほほえみ)の短期入所受入検討～試行～実施11月
- ③病院・回復期リハ病棟訪問(5回 6カ所) *法人「県内養護学校訪問」
- ④入所待機者の定期的連絡・現状把握 5名/17名中
- ⑤待機者の短期入所利用 3名 (*31日支給 3名)

※学齢期・青年期の利用を広げるため、ほほえみ利用者の短期入所利用等の検討、試行を引き続き進める必要がある。
生活介護の通所利用について、次年度の新規事業(重心放デイ)開始等の状況を生かし、学齢児や卒業後の青年期の利用者の受入を展望したとくみを検討していく必要がある。

(共同生活援助よつばのクローバー)

- ①空床1補充 5.11 転倒事故からの入院 1名
- ②避難訓練実施(毎月/消防立合10.13月)
- ③市基幹C/ゆかり拠点事/ほほえみ相支との連携した利用者確保に努め、5月満床となり、年間収支状況となった。
- ④生活支援員(短時間勤務)配置に向け事務局人事部と打合～勤務時間/業務内容/求人方法(ポスター)等検討実施中。

●(H31.4～R2.2.17) 事故・インシデントの件数

平成30年度(H30.4月～H31.3)		平成31年度	
形態	件数	形態	件数
転倒・転落・滑落	34	転倒・転落・滑落	18
誤嚥	1	誤嚥・窒息	0
配膳	1	配膳	1
薬	8	薬(医務)	17
他害(破損)	0	他害(破損)	3
その他	11	その他	9
合計	55	合計	48

②経営プロジェクト会議の継続

- ①前期収支改善のためプロジェクト会議 9～11月 開催～長期入院の高齢の方の医療的サービスへの移行をすすめた。
- ②毎月の主任会で前月収支報告と対策(長期入院への対応等)
- ③経費削減 電気料金 H30 898万⇒R元年 516万(-382万)大幅な削減を実現した。
→料金変動に対応した業者変更システムの活用/警報へ「全員ワンアクション対応」などによる。

③行事・会議等のあり方改善

(行事) ①外部参加 夏祭り 73名 山形商事 0名 やつくんコンサート 51名 花見 16名 クリスマス 0名

新たな企画もあったが、外部参加者

②「指宿旅行 9・10・11月(3グループ/15名)」法人提起にもとづき、本企画は、生活介護(日中活動)への影響や職員の長時間拘束勤務の問題の解消ため、今年度をもって終了とした。

(会議) ①超過勤務短縮(H30 378万 R1 168万 (対前年比 44%)会議の業務時間内開催(棟ケア会議/モニタリング会など)

②職員会(回数年4回/職員討議を重視した改善(レクチャー&グループ討議)を実施、今後、会議の運営スキル

④重症心身障害児を対象とした放課後等デイサービスの創設検討

①R2年5月1日事業開始予定

②経過 6月開設準備室設置(22回開催)

9月理事会承認 10月職員体制検討 11～1月事業指定

2～3月 チラシ配布／説明会開催／利用相談・契約手続

3月末 事業指定通知

③他事業所見学研修7～9月(4)12月(2) 計 6事業所

④準備室会での研修実施(5回)

(5) 職場環境の改善と職員の健康管理

①「ハラスメント相談窓口」設置 2月 相談件数 1件

②柔軟な働き方体制づくり ※法人規定改訂への意見で一部反映

③正規(直接支援)と非正(シーツ交換など間接支援)との業務の振り分け実施(4月～)

※法人規定改訂実施(夜勤手当見直し/人事考課一部見直し等)

④重心放デイ開設へ「ほほえみでの体験研修(10月～3月計33名)

⑤ストレスチェック実施(12月)集計・分析・報告

(6) 施設・設備等の有効活用

①ベッド3台購入と旧式ベッド5台処分 12月～1月

②陶芸用攪拌機購入 月

他事業所利用及交流(未実施)～次年度以降

③食事介助用椅子整備(昇降式3脚/丸椅子12脚) 8月

④軽ライフ(車検切～廃車)

ドコモ車(車検切～次年廃車/後継車～軽リフトエブリー(リース)

重心放デイ送迎用車両～「ほほえみ」～リフト車(車いす2台用)

(7) 事故防止と防災、防犯、津波対策

①防火日誌改善(変更廃止)/防火管理者講習/公用車管理研修

②火災避難訓練「新避難計画(マニュアル)」実施 2.25/3.27

③AEDの耐用年数経過～買換え整備 9・30～実技研修実施 12.12

④不審者侵入(法人合同訓練参加 5.21 名)/来園者出入周知

⑤非常備蓄食提供体験研修 8.26 非常食試食

⑥災害用備品の整備状況検討及び整備計画

⑦コロナ感染症対策～休校措置時の職員子の受入/面会・検温・不急の通院院自粛など事業所の特性に応じた早期対応実施

⑧鹿児島市「桜島大爆発訓練」参加 1.9

(8) 地域を支える福祉拠点

①鹿児島市との福祉避難所契約を更新 5月(在宅身障者避難所)

②さんさん会 6.13/防災プロジェクト参加(4月～1名/1月～1名)

③実習生受入 鹿医福専 4名 /鹿医技専 2名/鹿女短 0名
鹿国大 1名 /麻生医福専 1名 (計8名)

④吉野東小学校5年 5クラス 175名/「体験学習」11月5～29日

⑤地域草払い清掃参加 (8月/1名)

⑥児童養護施設園生のアルバイト受入 1名

⑦県経営協「公益的とりくみの会議」参加(5.28)

⑧緊急一時保護受入 3件 6名 延保護日数 30日

居室ベッド	3台(12～1月)	522,398円
B棟居室電灯(LED)交換	(4～5月)	471,960円
制服(ジャージ・ポロシャツ)		168,332円
デスクトップパソコン	2台	248,400円
吊り下げ式体重計	1台 (11月)	438,130円
陶芸用攪拌機	1台	243,000円
園内PHS		0円

【工事・修繕計画】

1 屋上自家発電機等錆止め塗装	180,000円	▼実施
-----------------	----------	-----

【業務委託契約】

2 全館床ワックス清掃	324,000円
3 給食業務委託	

【1】はじめに

吉田愛青園では、重度の行動障害を持つ利用者・高齢や介助が必要な利用者・医療的ケアが必要な利用者に対し、現状に向き合い、課題を見極めて、自分らしく暮らせる生活を目指していけるよう職員がサポートしきめ細かいサービスをおこなっている。

日中活動においては、活動班を中心に小人数での活動の取り組み、利用者に応じた個々での対応など行っているが、グループホーム開設(令和2年度)による人員体制の確保などまだ課題が残っている。

【2】事業別実績

事業別利用日数(前年度比較)

事業名	令和1年度		平成30年度		前年度比	
	延べ日数 (日)	金額 (千円)	延べ日数 (日)	金額 (千円)	延べ日数 (%)	金額 (%)
生活介護	15,531	222,916	15,605	221,217	99.5%	100.7%
施設入所支援	18,127	132,067	18,048	124,129	100.4%	106.4%
短期入所	2,656	22,470	2,870	25,262	92.5%	88.9%
計	36,314	377,453	36,523	370,608	99.4%	101.8%

※実績数は国保連請求延べ利用数

【3】重点目標へのとりくみ

(1) サービスの質の向上

- ① 半年ごとのモニタリング会議、更に必要に応じケース検討会議を開き、より良い支援に努めた。
- ② 多目的棟での小人数の活動(陶芸関係を中心)を増やしてきたが、高齢化による多目的棟への移動負荷が重くなりつつあり活動の場とまでいっていない。今後も活動種目の検討、グループ化を図って利用の促進を図りたい。
- ③ 二大行事(夏祭り、クリスマス忘年会)の室内開催・開始時間の前倒しなどを行った。
また、今年度初の試みとし、夕食後のイルミネーションドライブ・休日の中グループ活動等を実施し休日参加者を増やせた。
わくワークデーの家族参加が減少、清掃ではない他行事としての検討も進めていきたい。
- ④ 入浴後、男女の生活空間をわけることで、個々の部屋で過ごせる時間をふやし「自室での暮らしづくり」をすすめられた。
- ⑤ 強度行動障害支援者研修の基礎研修3名・実践研修2名参加を進めて支援体制の強化を図れた。
- ⑥ 「ケサミニ」(毎日)「ミニ研修」(週末)「グループワーク」「〇〇さんトーク」(全体会時)など職員間の検討会の場を設け情報共有化が図れた。今後も継続して実施する予定。
- ⑦ 家族会総会時を利用して、家族に成年後見人制度の説明を実施した。令和2年度より後見人制度利用者への通帳返却を行う予定。(後見人制度利用者20名程、前年度より1名増)

(2) 人材育成

- ① 看護師、支援員の募集を行ったが定着率が悪く3月末の新規雇用は2名に留まっている。今後もグループホーム(共同生活援助)開設に向けさらなる人材確保(世話人、パート時短職員、

夜勤選任など)が必要とされるので引き続き募集を続ける必要がある。

- ② 人材確保の取り組みとしては、検討チームが中心となり職員募集のポスター作成・フェイスブック・ホームページによる職員募集を図った。また、法人主体の求人用パンフレットの作成が効果を出している。
- ③ 職員の昼休憩時間の確保のために休憩室を設置、休憩し易い環境を提供。看護師の休憩時間の確保が難しく定着化を図るための施策が必要である。対策としては看護師の増員による負担軽減の推進等を進めて行かなければならないと思われる。超勤については、会議（話し合い）を計画的に実施、時間外を使うことなく就業時間内で対応できるようになった。
- ④ 「ケサミニ」「週1ミニ研修」「職員トーク」「〇〇さんを語ろう」など、基本的なテーマの園内研修を継続的・日常的に実施してきた。今後も継続して実施していく。
- ⑤ 園長面談を年1回、他に関しては必要に応じ個々で行った。
- ⑥ 「体験研修」「他施設見学」の受け入れ側の態勢ができていなく未実施。計画立案時に受け入れ施設と日程調整を行い連携して実施できる体制を作る

(3) 経営基盤の強化

- ① 「生活介護」「施設入所支援」の定員に対する稼働率はほぼ100%を維持したが、「短期入所支援」については、利用希望者はいるが、利用者の実態・居住空間などの理由で空所がでている。
- ② 人員配置体制加算（生活介護） 人員配置1.7:1をキープできた。
- ③ 重度障害者支援加算Ⅱは、4月から対象利用者が30名から35名になり増収。次年度は40名で更に増収の見込み。
- ④ 共同生活援助、次年度開所（7月）予定で、区分4以上、重度障害者加算Ⅱの方を入所対象者として増収に繋がるように行っている。

(4) 危機管理（リスクマネジメント）力の向上

- ① 職員の意識向上のため、福祉物語「掲示板：ケサミニ」を毎日、週1で「ミニ研修」として読み合わせをする機会を作り人権擁護に関する考え方や「職員のあり方」「介護支援の技術」などの内容で行い職員のスキルアップをすすめた。
- ② 報告書は回覧を行い全体周知すると共に、必要に応じ検討会議を開催し、全体周知を行ってきた。また、職員会で討議する場を設け活発に意見を交換した。
- ③ 「サティスファーマ（マリンバ薬局）」へ調剤薬局一元化を進めた。
- ④ 環境整備を中心に、危険・修理箇所の点検を行い随時修理など行った。今年度は、10月から法人の施設整備課がスタートし、こちらも修繕などをお願いした。
- ⑤ 普通救命講習は、消防（吉田分遣隊）へ依頼し、園内で実施した。「118」講習は、今年度業者との日程が合わず実施していない。また、「118」は次年度廃止の方向で進める。「伝言ダイヤル117体験利用」は毎月1日に継続して実施した。
- ⑥ 感染症対策は、11月末注意報を目安に全職員マスクの着用を開始した。また、同時に通院2名体制、クッキング中止など感染マニュアルに沿っての活動・外出を実施した。年末年始の外出・外泊にはご家族に対しプリントを配布し注意喚起を行った。園内の消毒も次亜塩素酸0.02%の園内散布・職員もジェスパを携帯し消毒、「持ち込まない」「うつさない」を徹底した。
- ⑦ 安全な職場環境づくりを進めるため職員に整理整頓の声掛けを行い常に環境整備の意識を持つよう指導している。

(5) 地域社会との交流

- ① 今回、日曜学級への職員の派遣はなかった。
- ② 夏祭り・クリスマス会・衣類即売会など、法人内の施設や近隣住民への呼びかけ、園舎前の看板設置を行い、行事参加を呼び掛けた。今後も継続した呼びかけを行うことで交流を図っていききたい。
- ③ 法人内の事業所と連携をとり、陶芸活動など実施した。今後も継続していききたい。
- ④ 災害時の福祉避難所及びまちの救急ステーションとして、登録を行なっている。

(6) 施設設備等等の整備

- ① グループホーム開設に向け申請を行った。補助金が決定した。 (36,300千円)
- ② 一階男性棟の一部と、2階(厨房以外)の空調設備改修を実施した。
今年度、「災害時に備えた社会重要インフラへの自衛的な燃料備蓄の推進事業費補助金」を申請し補助金が下りたため、次年度改修分を含め今年度で終了。
(15,730千円 内補助金6,900千円)
- ③ 予定していた園内改修(医務室扉・男性棟仕切り戸)は、次年度へ持越した。
- ④ 園内改修(居室建具 9室実施) (1,699千円)
- ⑤ ハイエース購入 (3,006千円)
- ⑥ インカム(23台)購入 (1,525千円)
- ⑦ エアクローバー(15台)～園舎、多目的棟 (1,651千円)

【4】事業別実施状況

1 生活介護支援(日中活動系サービス)

(1) 利用状況 (R元年度内)

利用者数	60名(定員 60名)	男性 45名	女性 15名
障害支援区分	区分6(50)	区分5(7)	区分4(3) 区分3(0)

(2) 主な活動と支援状況

- ① ウォーキング：歩行力に応じA～F(6班)編成。利用者の状態に応じ都度見直しを行った。他、情緒面での安定を図るため、個別ウォーキングを昼の歯磨き時間帯に行った。職員増により、ウォーキング回数も増えてきた。歩行力の落ちている方などは園内ウォーキングを実施した。
- ② 活動：粘土(焼き物の色付け、粘土くだき)、パルプちぎり他行事に伴う活動など行った。創作活動(水曜日午後)では、出来上がった作品を掲示するなどして利用者さんたちにも成果を目にする機会を作った。スポーツレクリエーション(第1、3土曜日)を継続実施した。活動内容など更なるアイデア・工夫が求められる。
- ③ 休日活動：昨年同様、個別・小グループでの外出、ドライブ、カラオケ、DVD鑑賞、グラウンド活動などの提供を行った。今年度は、外出の機会を増やそうとの試みで、中グループ活動の取り組みを開始した。
- ④ 行事としては、夏祭り、クリスマス忘年会、ワークデー、日帰り旅行(7班)を利用者の状態など考慮したグループ編成で実施した。

- ⑤ 7月～9月（盛夏期）は、サマータイムとし、12：30昼食開始、午前中の少しでも涼しい時間に活動を行えるようにした。しかし、この期間午後の活動時間が制限されるなどの問題もあり、次年度からはサマータイムを廃止、同年同時間での活動とし、内容を変えていく。
また、この期間は、水分補給（ミネラル、塩分、糖分を含む）を活動前に実施した。
- ⑥外出前の写真撮影の実施～行方不明時等の容姿確認に利用

2 施設入所支援

(1) 利用状況 (R2.3.31現在)

利用者数	50名（定員 50名）	男性 36名	女性 14名
障害支援区分	区分6（42）	区分5（7）	区分4（1） 区分3（0）

(2) 主な活動と支援状況

- ① 本人の持っている力を見極め、できることを維持する支援、できない部分を補うようなADLの支援を大切にしてきた。
- ② 高齢者を含め、介助を要する利用者に対し、統一した支援が行えるようにケース検討・勉強会（オムツ使用の講習など）を行い、情報共有に努めた。
- ③ 毎日入浴を実施。朝夕のバイタルチェックで利用者の情報把握に努めた。
- ④ 本人、家族の要望（外出・外泊）については、制限を行わず、要望に応じてきた。感染流行時に「外出・外泊・面会についてのお願い」を配布、また1月15日は「外出・外泊・面会の制限」を出し、園内感染蔓延への防止策を講じた。
- ⑤ 65歳以上の利用者家族と面談などを行い、継続的に介護認定を勧めた。
4名中1名は11月同法人の障害者施設に移園、1名は2月老人介護施設に移行した

3 短期入所支援

(1) 利用状況 (R元年度内)

利用者数	10名（定員 10名）	男性 9名	女性 1名
障害支援区分	区分6（7）	区分5（1）	区分4（2） 区分3（0）

(2) 主な活動と支援状況

- ① 行動障害の激しい利用者・精神疾患の伴う利用者への対応として、個室での受け入れを行った。
- ② 法人内他事業所で受け入れることができなかった（満床のため）利用者の新規受け入れを行った。
- ③ 短期入所希望の家族、施設との面談を行った。

【5】給食サービス

- ① 利用者の楽しみの一つである、おやつを毎日提供するようになった。
- ② 食事内容については、日々の利用者の方の食事状況、検食簿の意見、給食委員会で意見を出し合い献立や調理に反映させた。
- ③ 日々の状態把握について、看護師・支援員との連携を行い、体調に合わせた食事の提供を

行った。

- ④ 食事形態・食事量・使用食器などについて、体位測定・健康診断・通院状況・食事状況などから状態把握をし、検討見直しを定期的に行った。
- ⑤ 衛生管理や感染症対策などについて、委託業者と連携して対応の確認・研修を定期的に行った。

【6】看護・医療的ケア

(1) 入院

- ① 硝子体修復手術で入院するが、拒薬、拒食、暴言暴力があり手術困難。微かな光での歩行は、不安定で今後の対応が課題である。
- ② 風邪静養中、状態悪化で肺炎発症。緊急搬送を行い、治療を行うが2/14逝去。
- ③ 利用者の血糖コントロールが施設内でできなくなったため為入院にて対応。

(2) 通院

- ① てんかん発作含む転倒による怪我、他害による捻挫、原因不明による起立困難等。通院が増加している為、環境整備と相互の安全確保の対応に努めた。
- ② 高齢に伴う下肢筋力低下による転倒。転倒による怪我の縫合、頭部強打による脳外科受診が数回あり見守り体制を強化した。

(3) 予防

- ① 感染症蔓延防止のため、例年と同様11月に2日間の日程でインフルエンザワクチン接種を行った。1月下旬から、風邪が蔓延、通院治療を行う。手洗い、嗽、園内消毒、換気、加湿の環境整備を強化しエアクローバー（オゾン脱臭器）を増設した。
- ② 昭和37年4月2日～昭和54年4月1日までに生まれた男性の風疹抗体検査を実施。16名中、1名を除き風疹に対する免疫が十分あることがわかった。
- ③ 高齢者の誤嚥性肺炎。刻み食、小分けを提供継続、汁物、お茶にとろみ食を提供。

(4) 健診

- ① 前期、後期健康診断 婦人科検診、歯科定期健診もしくは治療 脳神経外科定期通院。年齢と共に2次検診者が増加傾向である。

(5) 研修

- ① 例年同様、分遣隊によるAED（対外式除細動器）の講習を受けた。
- ② 緊急用自動式118番による酸素吸入、吸引器、人口呼吸器の研修を法人全体で行った。

(6) その他

- ① マリンバ薬局導入で薬局1本化、配薬等（一包作業）の課題もあり検討が必要である。
- ② 支援員の投薬負担軽減と業務分担（看護師の専門性）のため、看護師による昼の投薬を継続して行う。

【7】職員体制・育成

	令和2年4月1日		平成31年4月1日	
	正規職員	非常勤職員	正規職員	非常勤職員
園長	1	0	1	0
副園長	0	0	1	0
事務長	1	0	1	0
主任事務員	1	0	1	0
事務員	1	1	0	1
栄養士	1	0	1	0
看護師	2	1	2	1
支援課長	1	0	1	0
サービス管理責任者	1	0	1	0
生活主任支援員	4	0	4	0
生活支援員	28	1	26	0
生活支援員(パート)	0	1	0	1
生活支援員(時短)	0	0	1	0
支援補助員	3	2	3	2
合計	44	6	43	5

【8】施設設備整備等

【3】— (6)の通り

【9】苦情・相談・要望等

区 分	件 数	内容等
苦 情	3 件	郵便物の封の閉じ方について 外泊時の手帳の持たせ忘れについて 服のサイズ・衣類購入代金について
相談要望	17 件	預貯金からの借用について 短期入所利用の相談／利用者の今後について 食堂座席の変更について／家族での通院について 日常・通院時の下着着用について 家族の高齢に伴う外泊時の送迎について 自宅で生活されているお子様の今後について 学生の卒業後の受入れについて 入院中の患者様の受入れについて 利用者の外泊（不安）について 家族との面会・外出時の対応について

3月31日現在

【10】 事故・危機管理等

区 分	件 数	内容等
事 故	17 件	・ 受傷、自傷、他害（9） ・ 骨折（3） ・ 服薬管理ミス（2） ・ 施錠忘れ（2） ・ 設置物破損（1）
インシデント	12 件	・ 服薬漏れ、管理ミス（10） ・ 施錠漏れ（1） ・ 物品紛失（1）

3月31日現在

【11】 地域との交流

- ・ ボランティアの受け入れ（夏祭り・クリスマス忘年会）就職を視野に入れた方のボランティア受け入れもあった。（3月～）
- ・ 山形屋商事即売会へのお誘いを近隣住民に声かけした。

【12】 家族・後見人との交流

- ・ 家族会総会
- ・ わくワークデー
- ・ 夏祭り
- ・ クリスマス会
- ・ その他、随時相談面談など

【13】 情報公開

- ・ 月刊で「Yoshida Walker」を毎月発行
- ・ ホームページでの情報発信
- ・ フェイスブックで情報発信

平成31（令和元）年度 年間行事及び研修報告（吉田愛青園）

	行 事	研 修
4月	・家族会役員会（7） ・グラウンドゴルフ大会（27）	
5月	・家族会総会（5） ・障害者スポーツ大会（12） ・日帰り旅行①（28）	・強度行動障害支援者基礎・実践研修 （9～11）
6月		
7月	・利用者・職員前期健康診断（23）	
8月	・夏祭り（25）	・人権擁護研修（8） ・インフルエンザ感染症講習会（9）
9月	・総合防災訓練（3） ・日帰り旅行②（10） ・ふれあいスポーツ大会（22）	・相談支援員初任者研修（3～4） ・強度行動障害支援者基礎研修 （2～3） ・防火管理者研修（20～21） ・給食従事者研修（10）
10月	・日帰り旅行③（10） ・わくワークデー（20）	・強度行動障害支援者基礎研修 （3～4） ・全国施設職員研修（22～24）
11月	・インフルエンザ予防接種（5、6） ・日帰り旅行④⑤（14、21）	・強度行動障害支援者実践研修 （5～6） ・サービス管理者基礎研修 （12～14） ・強度行動障害支援者基礎・実践研修 （19～21）
12月	・日帰り旅行⑥（5） ・クリスマス忘年会（21） ・餅つき（27）	・強度行動障害支援者実践研修 （9～10）
1月	・鏡開き（11） ・利用者・職員後期健康診断（24）	・虐待防止権利擁護（9） ・家族並び職員研修（18～19）
2月	・豆まき（4）	・強度行動障害支援者基礎研修 （18～19） ・サービス管理者研修～介護 （27～28）
3月	・総合防災訓練（3） ・日帰り旅行⑦（6） ・花見（26）	・安全衛生推進者研修（14～15） ・強度行動障害支援者実践研修 （14～15）
その他	・ふれあいパーティ ・誕生祝い（個々） ・理髪（移動散髪） ・ブラッシング指導（随時） ・山形屋商事即売会（7/23）	・施設内職員研修 （ケサミニ・ミニ研修・実践研修他） ・法人内合同研修 （管理職勉強会／新任オリエンテーション） ・経営幹部強化塾（5回）

1、はじめに

開設14年目。利用者支援の新たな取組みだけでなく、職員の職場環境改善も行った。

2、今年度の重点目標

(1) 質の高い福祉サービスの提供

日中活動支援の充実のための見直しや、支援技術向上のための研修や人権ハンドブックを参考にした虐待防止等の研修を行った。

また、利用者・家族や家族会の要望など施設運営に反映できるよう努力した。しかし、要望にまだ応えられてない部分もあり、さらなる努力を継続する。

○家族から要望の高かったトイレトペーパーの設置、防犯カメラ設置を行った。

○グループホーム利用者さんの希望により、日曜日の過ごし方を一部変更した。

●歩行(ウォーキング)の時間の確保ができていなかったが、近辺など歩行コースの検討し徐々に時間を作るように努めつつある。

(2) 人材の確保と育成

事業所に必要な人材を法人本部を中心に求人募集等を行うことで年度初め減少していた人材の確保がされた。

人事考課や自己申告書をもとに職員個々の業務能力など再確認し、法人・所内外の研修など実施した。

○問題が上がる度に、引継ぎノートや職員会議で達示を行い、周知を図った

●資格取得促進は、資格資金貸与規程や勤務の調整などの体制は整えているが消極的である。法人内の他事業所に比べて、福祉専門職員配置加算が低い上、マイクロバス運転資格所有者が少なく、日中の活動に制限がかかった。職員の意欲向上につながる雰囲気作りができていなかった。

(3) 環境美化、改善に配慮した施設運営

14年目を迎え、経年劣化した冷房設備などの入替工事や改修を行い、支援しやすい環境・働きやすい職場づくりに努めたが、まだ改修の必要な所もあり、継続していく。

○エアクローバー(オゾン発生器)を設置することで、除菌、抗ウイルスだけでなく、消臭に効果があった。特に匂いの酷いトイレの尿石除去を業者により行ったことも功を奏して、アンモニア臭がほぼなくなった

○厨房の床が滑りやすかった所にシートを敷き、更にウェット式からドライ式に変更した

○外壁の高圧洗浄機による清掃を行った

○玄関周りの掃除道具などを撤去し、玄関周りの美化に力を入れた

○事務室の構造上問題のない壁の撤去し、広く見通しの良い事務室となった

○倉庫を職員トイレに改装、風除室を設けることで、職場環境の改善を図った

○ファイルの綴じ方の改革(新しい日付を手前に)を行った

- 建物のペンキが剥げている（令和3年度修繕予定）
- 食堂の雨漏り（令和2年度修繕予定）
- 柔道畳を使用している部屋の衛生管理が困難。（令和2年度長尺シートに張替え予定）

(4) 経営基盤の強化

- 養護学校から実習に来た生徒が、翌年度の生活介護利用へとつながった
- 入所定員 30 名に対し 31 名入所、定員遵守の行政指導もあり 6 月入所 1 名退所に伴い是正されたが収入減、現状の勤務体制により一部加算も対象外やサービス利用者数の減少もあり収入減少が顕著であった。
- 必要経費は業者の見直しなどでの支出減少もあったが、設備の改修・漏水等の修繕や給食業務委託料の増額により負担が大きくなった。
- 生活介護の活動内容に魅力を感じられずに離れていく利用者さんがいらっしゃった。歩行が少なくなったのも大きなマイナス。

(5) 危機管理（リスクマネジメント）

- 感染症対策に注意し、「手洗い・うがい・手指消毒」など行い、エアクローバー（オゾン発生器）を設置することで殺菌・抗ウイルス・消臭につながった。
- 災害対策計画に基づき、毎月の避難訓練の実施や災害備品の備蓄整備を行い、外部からの不審者侵入等の安全対策から、防犯カメラやセンサーライトを設置した。
- 苦情・相談や事故等を速やかに報告し、適切な対応に努め、改善してきたが、件数の減少にはまだ、つながらない
- 非常時連絡体制拡充のため、「安心メールシステム」を導入したが、十分に活用されなかった。積極的に取り込む姿勢に欠けていたと思われる。

区 分	件数	内 容 等	H30 年度
苦 情	8 件	支援 4、サービス事業 1、その他 3	17 件
相談・要望	7 件	支援 3、その他 4	1 件
事 故	14 件	公用車 3、物損 4、受傷 7	8 件
インシデント	53 件	服薬関係 9、他害行為 10、破損 14、車両関係 3、施錠 1、異食 2 駐車場等への走り出し 1、転倒 2、物投げ 1、食事関係 6、その他 4	57 件
ヒヤリハット	8 件	服薬関係 3、車輛関係 2、その他 3	13 件

(6) 地域との交流

- 養護学校からの実習生受入を行い、学校との連携を図った
- 短期大学の保育士実習生を受け入れた
- ボランティア受入、さんさん会（吉野地区社会福祉施設連絡協議会）参加を行った
- 周辺地域の清掃活動は、体制が整わずできなかった

(7) その他

- 経年劣化した空調設備の大規模入れ替えを行った
- 漏水発生による補修工事の実施を行った

3、事業別実績

サービス	平成31・令和元年度		平成30年度	
	延べ日数(人)	金額(千円)	延べ日数(人)	金額(千円)
生活介護	12,269	178,500	12,663	184,944
施設入所支援	10,970	80,680	11,150	86,641
短期入所	401	3,124	408	3,368
日中一時支援	86	1,130	101	1,342
移動支援	47	268	91	408
行動援護	33	394	42	463
共同生活援助	1,783	18,107	1,742	15,965
福祉有償運送	132	288	306	537

4、事業別支援状況（主な活動と支援状況）

(1) 生活介護

- 入所、通所をそれぞれ2グループに分けてグループ編成し、4グループでの活動を行なった。
畑の活用、季節ごとの作品作り、ウォーキングなど個々に応じた活動の提供を行なった。
- 近辺ウォーキング入れる体制を整え始めた。（「出来ない」から「どうしたら出来るようになるか」を職員が考えるようになった。）
- 定員を充足できていない。どうしたら充足するかを積極的に考える風潮が欠如している。行動障害者の受け入れとリスク管理（今の職員では、これ以上行動障害者を受け入れられない）という気持ちが強く、職員の要意識改革が問われる。

(2) 施設入所支援

- 週末の個別活動（年に3回）やグループ外出（月に1回）を計画し、利用者さんの希望に添った活動が提供できるようにした。言葉での意思決定、視覚的な意思決定を重視した。
- 365日毎日入浴を実施することで、疲れを癒してもらう、清潔を保つことを継続。

(3) 短期入所

- 生活介護利用の方の平日利用が定着した。
- ご家族が少しでもゆっくり出来るようにご家族のケアも含めた短期入所受け入れを行なった。

(4) 日中一時支援

- お仕事をされているご家族の負担を軽減できるように努めた。

(5) 移動支援

- 生活介護後の利用や通院などのための移動支援の実施。
- 利用者さんのニーズに合わせた移動支援を行なった。
- 職員配置や有資格者不足により、利用回数を原則月1回とした。

(6) 行動援護

- 生活介護後の利用や通院などのための行動援護の実施。
- 利用者さんのニーズに合わせた行動援護を行なった。
- 職員配置や有資格者不足により、利用回数を原則月1回とした。

(7) 共同生活援助（グループホーム）

- 出来ることは自分であることを目標に、衣類整理や食事の片付けなどを利用者さん一人ひとりが取り組めるように支援した。
- 週末は、自分で部屋の掃除をしたり、職員と買い物に出かけたりおやつを作ったりなど、経験する体験することを実施。

(8) 福祉有償運送

- 有資格者が利用者さんのニーズに合わせて送迎を行なった。

5、給食サービス

- 年齢や咀嚼など身体能力に合わせた食事の提供に努めた。
- また、毎月の誕生会では利用者のセレクトメニューを実施し、要望に応える提供も行った。
- 7月より、給食業務をLEOCに委託したが、委託料が前委託会社より高く、事故も多く、内容が不十分だったため、R2年6月をもって解約で通知している。

6、医療

- 近辺の設備のしっかりした病院などもできてきており、利用者の待ち時間なども考慮し変更してきた。
- マリンバ薬局で薬の管理を統一し、一包化・配達をお願いすることで、職員の負担も軽減・誤与薬を防ぐ体制も整いつつある。

7、職員体制（R2.4.1現在）

職名	正規職員	準職員	派遣	計	H30年度
施設長	1			1	1
事務長	1			1	1
生活支援課長	1			1	1
サービス管理責任者	1			1	1
サービス提供責任者	1			1	1

主任生活支援員	3			3	4
生活支援員	31	7	1	39	35
看護師	3			3	3
栄養士	1			1	1
調理長	1			1	
主任事務員					1
事務員	2	1		3	2
合計	46	8	1	55	51

※育児休暇・休職含む

8、家族・後見人との交流

○7月・11月クリーン作戦は天候不順等により中止、夏祭りは家族参加で行えた。
利用者・家族の要望をうかがえる機会を作ることを今後も計画していく。

9、情報公開

○年4回の家族向け広報誌発行を行い、事業所の取り組みを伝えてきた。

●Facebook 更新が不十分で、新鮮な話題提供ができていない。職員の意識の低さに対し、どう対処したら響くのが課題である。

10、今後の課題

・働き方改革、有給休暇5日取得義務等、職員が業務に携わる時間が限られてくる中、効率的な仕事のあり方、行事等の見直しが求められる。

・福祉系の資格取得を目指す職員、及びマイクロバス運転のための免許取得者が極端に少ない。今後の活動の広がり、利用者さんのQOL向上に向けて、職員には奮起してほしい。

令和1年度 年間計画及び研修報告(あおいとり)

月	業務・行事	研 修(予定)
4	入社式・辞令交付(1日) 家族会総会(27日)	県知障福祉協会定例総会(17日2名)
5	スポーツ大会(12日) ふらり旅(27日) 残食調査週間(13~17日)	社会福祉施設等新任職員研修(県社協21~22日1名) 知的障害者福祉協会新任職員研修(県知障協30~31日2名)
6		強度行動障害支援者養成研修(基礎、実践)(福岡3~5日1名) 運行管理者研修(12~14日1名)
7	職員健康診断(19日) 利用者健康診断(26日) 総合防災訓練(10日)	社会福祉法人会計研修(4日1名)
8	夏祭り(3日) てらやまの風ふらり旅(20日)	人権擁護研修会(8日1名) 社会福祉施設等中堅職員研修(県社協21~22日1名)
9	一泊旅行(9~10日) 腹部エコー検査(27日)	強度行動障害支援者養成研修(基礎)(ゆうかり2~3日3名) 給食施設従事者研修(10日1名) 防火管理者研修(19~20日1名) グループホーム給食従事者研修(24日1名)
10	登山(ハイキング)(18日)	強度行動障害支援者養成研修(基礎)(3~4日2人、16~17日2人) 社会福祉法人会計研修(10日1名) 全国職員研修大会(22~24日3名) サービス管理責任者更新研修(29日1名)
11	登山(ハイキング)(1日)	強度行動障害支援者養成研修(実践)(5~6日1名) 施設家族会連合会主催研修(8日1名) 強度行動障害支援者養成研修(基礎、実践)(福岡)(6~8日1名)
12	クリスマス会(13日) 総合防災訓練(18日)	強度行動障害支援者養成研修(実践)(9~10日2名) 運行管理者研修(11~13日1名) 施設長等研修(11日2名)
1	夜勤者健康診断(17日)	障害者虐待防止・権利擁護研修(8日1名) 家族及び施設職員研修(18~19日1名)
2	ふらり旅(7日) 入所利用者健康診断(14日)	法人会計研修(4日1名) サービス管理責任者研修(基礎)(12~14日1名、25日~27日1名) グループホーム事業所研修会(20日1名) 強度行動障害支援者養成研修(基礎、実践)(福岡)(25~27日1名)
3	花見(27日) 食堂・厨房消毒(27日)	
その他	全体職員会(毎月) 主任会(毎月) 運営委員会(毎月) 衛生・医療委員会(毎月) 避難訓練(毎月) 誕生会(毎月) 理髪(2か月に一度)	

1 基本方針

開業5年目になり、これまでの積み重ねを基礎に、ニーズに応え迎え、法人理念を念頭に「基本方針」と「重点目標への取組」を掲げ、事業を実施した。

職員の人材育成に努めながら、支援の質の向上を目指し、利用者・御家族が満足できる支援を全職員で取り組んだ結果、支援の充実を図ることができた。

収支については改善が図れなかった。さらに事業内容の見直しや再検討が必要である。

- (1) 人権や権利を尊重した質の高い福祉サービスの提供
 - ・ 人権の研修等もほとんど毎月の職員会議の際に実施できた。また、支援に対する職員の意識の向上に努めるための情報提供を通して質の高いサービス提供ができた。
- (2) 人材の確保及び育成
 - ・ 鹿児島女子短期大学の実習生を受け入れ、雇用につなげることができた。企業や学校がイダンスに法人内で連携を取りながら参加した。法人内や事業所内研修、福祉協会主催等の各種研修会に参加させ、専門性の向上を図ることができた。
 - ・ 自主学習の機会の提供として、研修会の情報の掲示を行い、多くの職員が休日を利用して参加し、自己研鑽に努めた。
- (3) 経営組織のガバナンスの強化
 - ・ 職員会議で毎月、利用状況とその実績等をサービス毎に明確にすることで、職員の経営感覚を醸成に努めた。
- (4) 地域における公的な取り組み
 - ・ ジャズコンサートへの実施や、鹿児島AT研究会等への施設の開放、かごしまおもいやりネットワークへの職員の参加など地域社会への貢献ができた。

2 重点目標

- (1) ガバナンス体制の強化と経営戦略
 - ① サービス事業別に毎月の実績管理を明確にし、事業の状況把握・経営の透明性・健全性を図ったが、収支改善までにはつながらなかった。
 - ② 職員を業界内外の説明会・勉強会に積極的に参加させ、福祉の状況変化や制度改定などの変化に対応できる人材の育成に努めた。
 - ③ 利用者のニーズに応えるために、生活介護の定員を18名から20名に増やし、事業の拡大を図った。しかしながら定員充足率を高めることにはつながらなかった。
- (2) 質の高い福祉サービスの提供
 - ① 利用者一人一人の成長や障害特性を理解し、支援計画を基本にそれぞれのニーズに応じた支援を提供することができた。また利用者の心身の変化にも気づくと適切な対応を大切にした支援ができていく。
 - ② 御家族と日々の送迎時や行事等での情報交換を通りして関係づくりに努めた。保育園・幼稚園、学校、行政機関、他サービス事業所等との連携して、信頼関係を築き、利用者や御家族に寄り添う支援の提供ができた。

- ③ サービスに関するアンケートを実施し、支援の質の向上や業務改善に活かした。
- ④ 天井走行式リフトを導入し、利用者の安全な支援と職員の労災予防に努めた。

(3) 定員100%の達成

年間の利用率は生活介護が、利用者の移動等があり100%達成できなかった。

	定員	延べ利用者	開業日数	現員	利用率
生活介護	20	5,244	293	17.9	89.5%
児童発達支援	10	3,077	293	10.5	105.0%
放課後等デイ	10	3,047	293	10.4	104.0%

(4) 危機管理(リスクマネジメント)

- ① 防災計画に基づく訓練を毎月実施し、災害・防災時における役割や避難ルート等に対する職員と利用者の意識向上に努めた。
- ② 車両や機器導入時には事故を未然に防ぐための勉強会を実施し必要な予備知識の習得に努めた。
- ③ 毎月の全体職員会議でヒヤリハット、インシデント、事故報告の分析・改善策の検討結果を提供して周知徹底を図り再発防止に努めた。入浴提供忘れがあったが、掲示板を設置して漏れがないように改善した。
- ④ 感染症対策として「検温の実施」「手洗いとうがいの実施」「体調管理」「情報収集と提供」等の励行に努めた。
- ⑤ 緊急時のメールサービスである安心メールの提供を法人内で先駆けて開始し、利用者や職員に向けて日頃からの情報発信を行った。

(5) 人材育成や勤務評価と研修・資格取得体制の充実

- ① 自己申告と職員面接を実施し、職員一人一人に寄り添った指導・育成を図った。
- ② 相談等がしやすい環境を作りながら、職員が持つ不安や疑問、問題等の解決に積極的に取り組んでいき、各職員が成長できていく場を提供した。
- ③ 法人内階層別等職員研修や事業所内研修の充実に努めた。
- ④ 職員を福祉団体等主催の外部研修に派遣し、人材育成に努めた。
- ⑤ 資格取得研修への積極的な職員派遣を行った。
- ⑥ 資格取得がしやすい職場環境づくりと職員指導に努めた。

(6) 接遇マナーの徹底

- ① 職員会議で支援についてという項目で、支援者としてのあるべき姿について繰り返し指導を行った。
- ② 年度当初の職員会議で身だしなみ等について具体的に指導を行った。
- ③ 職員の笑顔や節度ある行動を期待して、ほほえみマークを施設内や車両に配置した。

- ④ 電話対応について会議等でその重要性について職員指導を行った。

(7) 地域との交流

- ① 実習生や音楽会時のボランティア(鹿兒島大学留学生、夏祭りの時の保護者)、見学者等の受入を行った。
- ② ほほえみの施設を使った利用者、家族、地域住民を対象としたジャズコンサート の開催や教職員等を対象にした研究会の会場提供を実施した。
- ③ 吉野さんさん会への参加を通して、研修会や地域の清掃活動への参加を行った。

(8) 施設・設備等の整備

- ① 災害対策で家具等の転倒防止器の設置を行った。避難携行品では自動車用のインバーターも購入し非常時の電源確保を行った。保存食の定期的な管理のため非常食献立を実施した。
- ② 電気事業者を変更し電気料金の低減化を行った。
- ③ 施設整備課と連携し、建物内の補修や伐木作業を職員で実施し環境の整備に努めた。

3 事業別実績

事業別利用日数・請求金額

事業名	令和元年度実績		平成 30 年度実績		前年度比	
	延べ利用 日数(日)	金額 (千円)	延べ利用 日数(日)	金額 (千円)	日数 (%)	金額 (%)
児童発達支援	3,089	37,406	3,274	39,983	94.3	93.4
放課後等デイ	3,047	32,805	2,619	27,899	116.3	117.6
生活介護	5,244	93,909	5,460	98,752	96.0	95.1
日中一時支援	2,196	2,365	1,972	2,130	111.1	111.0
保育所等訪問	127	1,337	184	3,258	69.0	41.1

4 事業別状況

(1) 児童発達支援

- ① 午前には主に低年齢児を対象とし、親子通園では、親子が触れ合っ て楽しく 過ごせる活動を中心に、発達に不安を抱える保護者への支援を行いつつ、親子関係がさらに深まるように支援を行った。また、入園を見据えて、親子分離も行い、単独通園支援も行った。
- ② 午後は並行通園をする主に年中以上を対象に単独通園を行い、就学に向けて小集団での自己肯定や人とのかわり等、また発達段階や興味関心を理解し、様々な体験を通して集団生活に適応できるようにその子に応じた支援を行った。
- ③ 保護者に対しても臨床心理士による相談会や専門職による訪問支援等を行い、親子支援だけではなく、父親や祖父母・兄弟が参加する行事も実施し、家族を取り込んだ支援にも継続的に力を入れました。

- ④ 小学校への就学支援については就学相談会に同行したり、移行支援シートを作成して直接学校を訪問して引継ぎをおこなったりして丁寧に支援に努めた。
- ⑤ これまで予約段階で14～15名設定して、実際の利用が11～12名となるように調整していた。そのため年間利用者平均数が11名を超えてしまい、補助金の返納があったことを踏まえ、前年度より予約数を減らし、定員10名の順守に努めた。

(2) 放課後等デイサービス

- ① 鹿児島養護学校(主たる障害が肢体不自由)の児童生徒を対象に、安全面に配慮しながら、「ほっ」とできるかかわりと空間づくりに心掛けながら、楽しみの持てる時間となるようにプログラムを立てた。夏休みや臨時休業等長期休業中では体調の変化に配慮しながら外での活動、クッキングやミュージックタイム、買い物等を利用者の要望を聞きながら活動に充実を図った。
- ② 複数の職員で乗車時の安全確認を行い、職員同士、利用者と職員間で言葉を掛け合い、連携を図ることで安心感の維持や事故防止に努めた。
- ③ 他事業利用者とカラオケやドライブ等一緒に活動を実施し、交友関係を広げた。
- ④ 「放課後等デイサービスガイドライン」の理解を深め、より充実した支援につなげた。
- ⑤ 利用者や保護者のニーズに応える支援の一つとして、入浴支援サービスや送迎を実施した。

(3) 生活介護(知的)

- ① 一日の生活リズムづくりのため、体を動かすウォーキング活動、手しごと(縫製・ビーズ・ちぎり絵等)や木工、畑仕事、花壇の管理等を行った。利用者の個性や持っている力を発揮することを大切に、職員間で情報共有をしながら支援を行った。
- ② クッキングやミュージックタイム、レクリエーション活動を毎月1回行い、少人数での外出・遠足を実施することで生活経験の拡大や楽しみの多い時間につなげる支援も行った。外出先は利用者さんの思いをくみ取り、活動内容に反映させた。
- ③ 「受け止め、寄り添う支援」を心掛け、「ほまえみ」が心地よい場所となるように、利用者の特性を理解し、体を動かすことを大切にしながら、それぞれが持つ強みを生かせる支援を心掛けた。また、御家族や職員との連携を図りながら、より良い支援につながるように情報共有や信頼関係を積み重ねた。
- ④ 男性職員の配置を行い、外出先等での同性介助の支援につながった。

(4) 生活介護(肢体)

- ① 描く、粘土、フットマッサージ、手しごと、パソコン、畑の活動を行い「見る」「触る」「聴く」等いろいろな事を感じることができるよう支援をした。また、クッキングやミュージックタイム、レクリエーション活動も実施した。
- ② 一日4～5名で曜日を決めて衛生保持や血行促進、リフレッシュにつながる「入浴」の提供を行った。
- ③ 外出先は利用者の希望や思いをくみ取り反映させることで、自己肯定感の充足につなげることができた。
- ④ 「お出かけ」「室内活動」「お風呂の日」という生活リズムの中で、期待と楽しみを持

ちながら日々の活動に参加できるように、お互いに「認め合い」共に「育ち合う」関係を大切に支援をした。

- ⑤ 御家族や利用者のニーズ(入浴・送迎等)にも応え、鹿児島養護学校卒業後の居場所にもなり、地域にとって必要な役割を果たすことができた。

(5) 日中一時支援

- ① 生活介護の前後の時間、土曜日や学校休業日、長期休業・臨時休業時に受け入れを行った。
- ② 放課後等デイの利用者に対して、職員間で情報交換や支援の確認等をしっかり行うことで、利用者との関係づくりや支援の幅の広がりにつなげることができた。
- ③ 利用者数に応じた職員配置を行い、充実した支援の提供ができた。

(6) 保育所等訪問

- ① 専任職員を配置し、小学校、養護学校、幼稚園、保育園等を訪問し、利用児の保育参観や担任との情報交換を行うことで、利用児の支援の共通理解や保護者への情報提供や子育ての不安解消につなげることができた。また地域への発信や地域との連携を広げることができた。
- ② 主にほほえみの児童発達支援及び放課後等デイサービスを利用している幼児・児童について通っている小学校や幼稚園等への支援として情報交換を行った。
- ③ 今後も幼児・児童の成長や共通した支援や育ちを支えるために、また活動実績向上のために将来に向けての体制を検討する必要がある。

5 給食サービス

(1) 主な活動と支援状況

- ① 給食委員会で、栄養士(委託業者)と連携を図りながら、利用者の摂取状況や量、調理方法、嗜好、情緒、衛生面について協議し、食欲と安全安心に配慮した食事提供に取り組んでいる。
- ② 旬の食材、季節の行事等に配慮し、様々な献立を提供できるようにし、委託業者もそれに応え、利用者・職員に好評である。

6 看護・医療的ケア

(1) 主な活動と支援状況

- ① 正看護師3名(正規職員:2名,準職員:1名)を配置している。
- ② 看護師間の連携と医療的ケアの充実を図るため、実施マニュアルを基本にししながら、職員との共通認識や意識と知識の向上を図った。
- ③ 感染症流行や法人内施設での感染症発生時には看護師の指導の下、全職員で毎朝徹底した消毒、利用者や職員の手洗い、うがいの励行等と職員や保護者への情報提供と注意喚起を実施し、流行への対応を行った。
- ④ 生活介護(肢体不自由)に対しては、毎朝のバイタルサイン(体温、脈拍、血圧、呼吸数)チェック、呼吸器チェックを行った。生活介護(知的)については毎朝の検温を行っ

た。車椅子対応の体重計を導入し、毎月の体重測定も実施した。また定期的に緊急時の対応についての協議した。保護者や送迎の他事業所職員からの情報をしっかりと聞き体制をとった。

7 職員体制

(H31.4.1 現在)

職名	正規	準職員	計
施設長	1		1
副施設長	1		1
事務員	2		1
サービス管理責任者	1		1
児童発達支援管理責任者	2		2
生活支援員	9	2	11
保育士	6		6
児童指導員・指導員	2	1	3
看護師	2	1	3
相談支援専門員	3		3
合計	29	4	33

施設長・副施設長は相談支援事業所の管理者・副管理者と兼務

8 その他の施設・設備整備等

- (1) 天井走行式リフトの整備
- (2) 駐車場の屋根清掃及び伐木作業
- (3) オゾン発生器(エアクローバー) の導入
- (4) 事務用パソコン更新(1 台)
- (5) 全PCにウィルス対策ソフト 導入
- (5) 全トイレのクリーニング実施

9 情報公開

- (1) ほほえみっこ便り(児童発達) . . . 家族向け(毎月1 回)
- (2) さくらだより(放課後等デイ) . . . 家族向け(毎月1 回)
- (3) 生活介護新聞(生活介護) . . . 家族向け(毎月1 回)
- (4) ホームページ・Facebook . . . 随時更新(毎週1 回)

令和元年度行事・研修報告

月	業 務・行 事	研 修 (☆事業所内)
4	全体職員会 職員健康診断 春休み放課後等デイ 人権擁護安全委員会 給食委員会 はじまりの会(生活) 火災等避難訓練 グループ外出(生活)	☆人権擁護虐待防止研修 ☆新任職員研修 福祉協会定例総会 親善球技大会
5	全体職員会 防犯・火災避難訓練 遠足(生) 平川先生と語ろう会(児童) 園外保育(児)	☆新任職員研修 ☆人権擁護虐待防止研修
6	全体職員会 健康推進月間 グループ外出(生) 歯科検診 ほほえみ総会 園外保育(児) 風水害等避難訓練	新任職員研修会 法人内研修 ☆人権擁護虐待防止研修
7	全体職員会 グループ外出(生) 給食委員会 公開療育 平川先生と語ろう会(児) 夏休み放デイ 総合防災訓練	☆人権擁護虐待防止研修 法人内 研修 北部ネット ワーク会議
8	全体職員会 夏祭り お父さんイベント(児) 人権擁護安全委員会 夏休み放デイ 火災等避難訓練	安全運転管理者講習 児童発達支 援連絡会 放デイ連絡会 人権擁護虐待防止研修会 ☆事故インシデント 検討会
9	全体職員会 十五夜おはなし会(児) 火災等避難訓練 平川先生と語ろう会/祖父母イベント(児) 防災委員会 グループ外出(生活)	相談支援従事者研修 法人内研修 強度行動障害支援者養成研修/基 ☆火災受信機操作研修
10	全体職員会 ハッピーフェスタ見学(生活) 防災訓練 グループ活動(生活) 園外保育(児童) ハロウィンマジックショー(児童・放デ) お花見/コスモス(生活) インフルエンザ予防接種	☆人権擁護虐待防止研修 障害福祉サービス事業集団指導 全国知的障害福祉関係職員研究大 会(鹿児島大会)
11	全体職員会 総合防災訓練 防犯訓練 グループ外出(生 活) 平川先生と語ろう会(児) みかん狩り(児) JAZZ コンサート 人権擁護安全委員会 人権擁護安全チェック 月間	中堅職員研修会 法人内研修 安全衛生推進者研修
12	全体職員会 クリスマス会 餅つき ハートピア作品展 給食委員会 冬休み放デイ	法人内役職員等会議 福祉協会施設長等研修会
1	全体職員会 冬休み放デイ 母親交流会(児) 防災委員会 火災等避難訓練 保護者との懇談会(デイ)	法人内研修 相談支援現任研修 福祉協会家族・施設職員研修会 安心ネット 会議 障害者虐待防止・権利擁護研修
2	全体職員会 地震等避難訓練 節分	強度行動障害者従事者研修 子育てネット 会議
3	全体職員会 卒園式(児童) 給食委員会 臨時休業デイ 春休みデイ お花見遠足(中止) 避難訓練	知的障害者種別部会 強度行動障害者従事者研修 法人内新規採用職員研修会

1 基本方針

4月から、相談支援体制を見直し、特定事業所加算(Ⅳ)や支援体制加算(行動障害支援体制加算、要医療児者支援体制加算)の要件を満たすようになった為、申請を行い事業を実施した。

(平成30年度に研修会等に参加している)その為、平成31年度の実績の増収に繋げることができた。

(1) 利用者本位の支援、その人らしい暮らしの実現

- ・利用される方のニーズにもとづき、その方が望む暮らしを共に考え一人ひとりのニーズに沿えるようしっかり向き合った相談、計画相談を実施することができた。

(2) 居住系サービスを核とした総合的支援の提供

- ・家庭や地域で生活することが困難な方へ施設入所支援など居住系サービスを核に日中活動系及び訪問サービスを含む総合的支援を提供してきた。その結果、様々な福祉サービスを提案しながら個々にあったプランを計画して期待に沿えた対応ができた。

(3) 質の高い福祉サービスの提供と活力あふれる職場づくり

- ・質の高い福祉サービスの提供のため、専門性と資質の向上に努めるとともに働きがいある活力あふれる職場に努めた。
- ・行動障害のある知的に障害のある方に対して、適切な相談支援などを実施する為に専門的な知識を持つ相談支援専門員(常勤)を配置している。
(強度行動障害支援養成研修修了者1名在籍)
- ・医療的なケアを要する児童や障害者に対して適切な計画相談支援などを実施する為、専門的な知識を持つ相談支援専門員(常勤)を配置している。

(医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者1名在籍)

(4) 地域と共に歩む事業経営

- ・今年度から地域における公益的な取り組みとして、「かごしまおもいやりネットワーク事業」に参加。当事業の相談窓口となる他、コミュニティーワーカーを配置し、生計困窮者等への訪問相談や現物支給等を実施してきた。

2 実施事業

- (1) 指定特定相談支援事業: 制度上、モニタリング回数を見直しにより作成件数が増えた。
- (2) 指定障害児相談支援事業: 法人内の事業所が周知され、利用・見学等する利用者が増えた。また、近隣の事業所数も増えて、新規利用者に繋がった。
- (3) 指定一般相談支援事業(地域移行): 昨年度同様、計画作成の依頼がなかった。
- (4) 指定一般相談支援事業(地域定着): 昨年度同様、計画作成の依頼がなかった。
- (5) 「かごしまおもいやりネットワーク事業」: 相談支援事業所に直接つながる事例はなかった。

3 今年度の重点目標

基本方針を具現化するために、次の重点目標を掲げ取り組めます。

(1) ニーズに応じながら、その人らしい暮らしの提供

- ①利用者の一人ひとりのニーズを把握しながら、サービス支援計画を作成し、関係機関やサービス事業所等と連携して情報を共有することでご本人が安心して不安なく過ごせる環境を整えてきた。
- ②ニーズに応じた支援や情報を提供していきながら、その人が望む暮らしを提供することができた。
- ③自立した生活を支えながら、抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、各サービス提供事業所であったり、鹿児島市基幹相談支援センターに相談してマネジメントすることによりきめ細かに支援することができた。
- ④地域で自立した生活を送るための、連絡体制の確保と緊急時の相談や必要な支援に対応することができた。

(2) 総合的支援サービスの提供

- ①利用者の成長や障害特性を理解し、本人やご家族、後見人との関係や意向を大切にしながら、様々なサービスを進めるなど総合的な支援を行ってきた。特に児童の家族については成長と共に不安感が強くなる傾向にあり、サービス種別やサービス内容、支給量の見直しを相談されることが多かったが、その都度対応して不安感の軽減に努めることができた。
- ②状況に応じ、施設入所サービスの提案なども行うことで、関係機関との連携の中で暮らしの拡がりが持てるような支援を行うことができた。

(3) 質の高い福祉サービスの提供

- ①3名の相談支援専門員を配置し、各職員が専門性を高め、資質の向上に努めながら、サービスの質の向上に結びつけてきたが、対応などで同じ法人内で苦情に繋がるような事案が数件あった。
- ②利用者に関する情報又はサービス提供にあたっての留意事項に係る伝達などを目的とした会議を月に2回実施し、支援スキルの向上を図ることができた。
- ③新規に採用した全ての相談支援専門員に対し、相談支援現任研修修了者の同行による研修を実施していく体制を整えたが、今年度、新規採用の相談支援専門員がいなかった。
- ④基幹相談支援センターなどから支援が困難な事例を紹介された場合において、当該支援が困難な事例に係る者に指定計画相談支援を提供してきた。
- ⑤毎月、鹿児島市自立支援協議会定例会などに参加し、ネットワークの拡充、情報交換などを通じて相談支援専門員としての質の向上に努めることが出来た。
- ⑥計画相談支援と障害児相談支援一人一月あたりの取扱件数が40件未満とし、一人ひとりのニーズに沿えるようしっかり向き合った相談、計画相談が行えた。
- ⑦ホームページ(ワムネット)を利用し、情報公開を行うと共に認知度を高めたり、運営等の透明性・健全性を図ることが出来た。

(4) 危機管理(リスクマネジメント)

- ①個人情報の取り扱いや管理を法人規定に応じ、適正に行った。

- ②事故を未然に防ぐため、必要な予備知識習得に努め勉強会を実施した。
- ③ヒヤリハット、インシデント、事故報告の分析・改善策の検討を行い、会議や青樹是供等で周知徹底を図り、再発防止に努めた。

(5) 地域社会への貢献

- ①専門性や人材を活用し、各関係機関と連携・協力しながら、地域のニーズの解決と地域の福祉力の向上のために、地域貢献を主体的・積極的に行った。
- ②かごしまおもいやりネットワークに参加することで、生活のしづらさを抱えた方々を包括的にサポートする体制をつくり、生活状況、生活上の課題、福祉課題など把握したうえで生活困窮者などの問題解決を支援する体制を整えたが、直接相談支援に繋がる事案はなかった。

(6) 自己申告と面接の充実

- ①自己申告と管理者による職員面接を充実させ、職員一人ひとりの個性に寄り添った指導・育成を図った。
- ②管理者と相談等がしやすい環境を作りながら、職員が持つ不安や疑問、問題等の解決に積極的に取り組んでいけるような場を設け、問題解決を図った。

(7) 人材育成と研修・資格取得体制の充実

- ①法人内階層別等職員研修や事業所内研修の充実に努めた。
- ②職員を福祉団体等主催の外部研修に派遣し、人材育成に努めた。
- ③資格取得研修への積極的な職員派遣を行い、支援体制加算の見直しを再度行った。
- ④資格取得がしやすい職場環境づくりと職員指導に努めた。

(8) 接遇マナーの徹底

- ①親しみやすい笑顔(表情)に努めた。
- ②周囲に配慮した身だしなみ(清潔感、機能性、周囲との調和)に努めた。
- ③節度ある挨拶、言葉遣い(態度)に努めた。
- ④好感を持たれる電話応対に努めることで苦情等はなかった。

(9) 地域との交流

- ①利用者、家族、地域住民を対象とした行事の企画、また地域の活動や行事に参加できるよう努めた。
- ②様々な活動を通して、障害を持つ人達への理解を広め、深めていくことに努めた。

4 年間業務等

平成31年度 相談支援年間業務・行事 及び研修

月	業務・行事	研修
4	鹿児島市自立支援協議会定例会 全体職員会議	
5	鹿児島市自立支援協議会定例会 法人内サビ管等会議、全体職員会議	
6	鹿児島市自立支援協議会定例会、全体職員会議 鹿児島市障害者基幹相談支援センター運営協議会	鹿児島市自立支援協議会定例会研修会
7	鹿児島市自立支援協議会定例会 小児慢性特定疾病児童等自立支援研修会 総合防災訓練、全体職員会議	
8	鹿児島市自立支援協議会定例会 全体職員会議	地域移行支援・地域定着支援研修会 発達障害者を正しく理解する勉強会
9	鹿児島市自立支援協議会定例会 法人内サビ管等会議、全体職員会議	地域連携Net Work情報交換会 発達障害者を正しく理解する勉強会
10	鹿児島市自立支援協議会定例会 全体職員会議	かごしまフォーラム 九州地区知的障害関係研究大会 相談支援従事者専門コース別研修
11	鹿児島市自立支援協議会定例会 鹿児島市障害者基幹相談支援センター運営協議会 インフルエンザ予防接種、全体職員会議 法人内サビ管等会議	
12	鹿児島市自立支援協議会定例会 総合防災訓練 全体職員会議	相談支援・就労支援セミナー 九州地区障がい者相談支援事業合同研修会 日本発達障害ネットワーク 地域移行支援・地域定着支援研修会
1	鹿児島市自立支援協議会定例会 全体職員会議	鹿児島県相談支援ネットワーク会議
2	鹿児島市自立支援協議会定例会(コロナの為、中止) 法人内サビ管等会議、全体職員会議	相談支援従事者現任研修 高次脳機能障害者支援研修会 (コロナの為、中止) 鹿児島市自立支援協議会定例会研修会 (コロナの為、中止)
3	鹿児島市自立支援協議会定例会(コロナの為、中止) 全体職員会議	鹿児島県知的障害者福祉協会全体研修会及び各種別部会(コロナの為、中止)

5 事業実績

	2018 年度実績	2019 年度実績	増減差額
計画相談支援	6,245,740 円	9,773,320 円	3,527,580 円
障害児相談支援	5,399,590 円	5,638,270 円	238,680 円
合計	11,645,330 円	15,411,590 円	3,766,260 円

1. 基本方針

開設3年目。法人事業計画にもとづき、下記の重点目標を掲げ事業を実施した。
法人職員、地域の子どもの状況を把握し、少人数保育・病児保育・一時保育など充実した保育の提供を行った。また、人材の確保と育成、組織作りをすすめてきた。

2. 実施事業

- ①通常保育(定員19名)
- ②病児保育(定員一日2名)
- ③一時保育(定員一日5名) (計3事業)

3. 今年度の重点目標

(1) 充実した保育の提供

- ①「あいさつ」がしっかりとできる子どもをめざし、登降園時、散歩時などあいさつがしっかりとできるように声かけを行った。あいさつをするという自覚が芽生えてきているように感じる。
 - ・ 少人数保育を活かし、ひとり一人にしっかりと向き合い、「褒める」「伝える」ことを行った。
 - ・ 個人の発達を把握して保護者と連絡をとりながら、食事や排泄など基本的な生活習慣の形成に向けて援助・声かけを行った。
 - ・ 自然豊かな環境を活かし、散歩や広場、畑での活動を実施した。昆虫や植物に興味を示す子どもが多く見られている。

※4つの重点項目を中心に、季節ごとの行事も取り入れ充実した活動を実施することができた。

- ②個別ケース会議は1回実施。保育士部会を毎月実施し保育の内容について検討することができた。
- ③適切な病児保育を行うために「かいせい保育園看護師」による研修(5/29)、子どもの発達、保育の姿勢を学ぶために外部講師による研修「育ちのきほん」11/27、12/27、1/29)を実施した。全職員が参加できるような体制作りが課題。
- ④人権擁護のための自己チェック・研修(7/30)を実施。身体チェックや子どもの様子観察をこまめに行ったが、虐待と思われる子どもはなかった。

(2) 人材の確保と育成

- ①保育士キャリアアップ研修会7名、保育安全研修(広島)2名、認可外保育施設セミナー2名、特別な配慮を要する幼児に関する研修・企業主導型保育園協議会・認可外保育施設研修会・児童福祉施設等研修会・保育所特別保育等研修会に各1名参加。他

園の見学研修は実施できなかったが、各人が研修参加で得たことを保育に活かすことができた。研修報告について検討が必要。

- ②人材育成のために、法人の規定に基づき人事考課を実施し、意欲につながっている。
- ③全体職員会・ミニ職員会・保育士部会は毎月実施、保健部会は隔月に実施し、各職員が提案・発言できていた。みんなで考えてすすめることができた。
年度末に職員に実施した保育サービスアンケートでは、いろいろな意見が出され、今後の運営を考える機会となった。
- ④人間関係は特に問題はなく、何でも気軽に話し合える場になっている。人間関係でのトラブル、離職は見られていない。
- ⑤年度後半(3月)の職員不足(保育士1名退職)で一時保育の受入日を制限することがあった。病児保育についてもいつでも受入ができる体制ではなかった。人員増を行い、受入体制の検討が必要。

(3)家庭との連携

- ①外部講師(保健師など)を招いての研修会を計画する予定であったが、期日や参加者など考えると実施にまで至らなかった。保護者の意見の集約が必要。
- ②育児の日での茶話会は実施できなかったが、年2回動画参観を実施し(8月と3月)保育の内容を伝えることができた。保護者間で話をされる場面もあったため、今後は保護者間の交流ができる機会を検討する必要がある。

(4)経営基盤の強化

- ①通常保育は、年度末退園者の正確な把握や新規入園予定者の入園時期、予約人数が不十分のため、年度当初は14名でのスタートだった。チラシを作成しスーパーへの掲示、近隣へのポスティングなど実施したが、11月に定員19名になるまでかなりの時間を要した。
- ②病児保育は、年間延利用が28名で、50人以上の加算分がとれず、基本分の522,000円のみであった。延利用人数が少なかった要因として①医師の利用証明事前提出の厳格化、②看護師2名から1名体制へ減員したことで利用時間、利用可能日数減少、③職員等への広報が不十分、④小児科併設の病児保育の充実等が考えられる、わかりやすい利用案内を作成し、広く地域へ周知する必要がある。
- ③一時保育は、6月より地域の子どもの受入をはじめると、利用希望が多くなり、年間延利用が44名で前年度比+392名となった。年度後半(年明け頃)より通常保育希望が数件有、空きがないことで一時保育利用が多くなった。今後も、一時保育の地域のニーズは多いと思われる。加算は300人以上900人未満の1,763,000円を受け取ることができた。
- ④通常保育の定員増も検討課題としていたが、11月までの定員割れを考えると難しいと思われる。通常保育・一時保育・病児保育を安定的に運営することが先決である。

3 事業の前年度との収支比較

(単位: 千円・人)

サービス内訳	年度収入/人数	平成30年度	令和元年度	増減表示
通常保育	通常保育収益	52,038	46,085	-6,853
	0歳児	35	21	-14
	1~2歳児	188	139	-49
	3歳児	0	39	39
病児保育	基本金収益	4,894	5,007	113
	加算金収益	2,550	522	-2,028
	利用人数	65	28	-37
一時預かり	基本金収益	1,524	1,763	239
	利用人数	152	544	392
合計		61,906	53,377	-8,529

病児保育加算: 基本分 5,007,000 円(平成30年度4,894,000 円)

加算分 522,000 円(10人以上50人未満)

2,609,000 円 50人以上200人未満(平成30年度2,550,000 円)

一時預かり加算 1,600,000 円(300人未満)(平成30年度1,524,000 円)

1,763,000 円(300人以上900人未満)

補助金 0歳児: 324,100 円 1~2歳児: 222,820 円 3歳児: 142,160 円

(5)危機管理(リスクマネジメント)

①苦情・相談・要望

区分	件数	内容等
苦情	3件	職員対応3(対応遅れ、共同利用契約、病児保育案内不備)
相談 要望	3件	利用3(第2子出産時の利用について2件、退職した場合の利用)

※職員の対応によるものがほとんどであった。その都度周知し改善策を検証してきたが、再発防止に向けて研修などを行う必要がある。

②事故・インシデント・ヒヤリハット

区分	件数	内容等
事故	0件	
インシデント	101件	転倒・打撲63、噛みつき・つまみ・引っ掻き・叩く21 擦り傷・挟まれ8、食事関係4、服薬関係2、破損2、誤飲1
ヒヤリハット	39件	園児の行動14(2件は屋外活動場所から離れようとする) 破損(設備面9、玩具4)、害虫3、落下物3、その他6

※インシデントは、走りまわることによって転倒・打撲することが一番多く、自分の気持ちを

うまく伝えられないことで噛みつく・引っ掻くことが二番目に多かった。食事関係で、異物混入が2件、未摂取食材の提供が2件あり、十分に気を付ける必要がある。その都度対策を検討し職員に周知している。

※ヒヤリハットは子どもの行動を細かく見てインシデントになる前の報告が出されていた。職員に周知し大きな事故に繋がらないようにしようとする意識が感じられる。

- ③アレルギー対応については、家族・職員間で十分に連携をとってきた。解除する際の書類が無かったため作成した。
- ④感染症対策は、手洗いの励行、適切なジェスノブ使用（手指 ドアノブ・スイッチなど）を実施した。エアクローバーの導入もあり、適切な使用を検討、実施している。
- ⑤乳幼児突然死症候群（SIDS）予防のため、午睡時のチェックを5分おきに行い、明るさにも十分気を付けてきた。
- ⑥火災・地震を想定した避難訓練を毎月実施、消防への通報訓練（7月）や消防立会での訓練（11月）も実施した。不審者対応の防犯訓練は、園独自で1回（6月）、警察立会で1回（12月）実施した。園外活動中の防犯訓練が必要。
- ⑦緊急時の連絡網として園の携帯電話に保護者のメールアドレスを登録し、また12月より「コドモン（保育園専用マネジメントシステム）」を導入し一斉連絡体制を整えた。災害用備品の整備がすすんでいないため、検討し準備をはじめめる必要がある。

(6)地域と共に歩む運営

- ①地域交流室での活動は、8月に地域交流会（4家族7名の子どもの参加）、3月におおとり職員による演奏会、8月と3月に動画参観での保護者交流などが実施できた。ボランティアによる読み聞かせなども計画していきたい。
- ②愛光園の夏祭りや下田苑を訪問して、手遊びうたやダンスを披露し交流ができた。
- ③共同利用企業（サポーター企業）は、5件（ヤクルト、ツクイ鹿児島吉野、南国テレホン、日本生命、メディカル・トータル・サポート）と契約。手続き方法など検討が必要。
- ④病児保育を地域へ広げる取り組みを行い17名の登録があったが、実際の利用は2名のみであった。利用を広げるためにわかりやすい案内チラシを作成して配布するなど工夫が必要である。

4. 職員体制

職種	正規職員数	非常勤職員数	備考
園長	1	0	事務局次長
副園長	1	0	保育士
事務職員	1	0	連携推進加算対象
保育士	5	1	正職1名は一時保育担当正職1名は病児保育担当
保育補助	0	3	子ども・子育て支援員研修受講済
看護師	1	0	病児保育担当
栄養士	1	0	
調理員	0	2	
合計	10	6	

※早出・遅出勤務対応の為、非常勤保育士2名求人中

	業務・行事	会議	研修
4月	入園・進級祝い（5） 避難訓練（16）身体測定（18） ジャガイモ洗い（24）誕生会（23）	全体職員会（10） 保育士部会（10、24） ミニ職員会（24）	AED操作方法（19）
5月	避難訓練（15） 身体測定（16）	全体職員会（8） 看護師部会（13） ミニ職員会（22） 保育士部会（22）	病児保育「にわかあめ」見学（9） キャリアアップ研修（障害児保育：26） （保護者支援：25、26）
6月	ピーマン・芋・オクラ苗植え（3） 防犯訓練（6）避難訓練（20） おにぎり作り（14） 身体測定（17）誕生会（17） 内科健診（嘱託医：19） 鹿児島市立入調査（24）	全体職員会（12） ミニ職員会（26） 保育士部会（26）	園内研修（AED操作：4）事務講座（4） "（アレルギー：18） 絵本講座（15）園内研修（18） 企業主導型保育園説明会（24）
7月	プール遊び（3～）避難訓練（19） 七夕のつどい（5）身体測定（19） 職員健康診断（19） 愛光園夏祭り参加（27） ピーマンの種取り（29）	全体職員会（10） 看護師部会（16） ミニ職員会（24） 保育士部会（24）	園内研修（人権擁護：30）
8月	スイカ割り（5） 消防設備点検（8） 避難訓練（17）地域交流会（17） プール遊び（～29）身体測定（19） 動画参観（26～30）誕生会（26）	全体職員会（7） 保育士部会（7） ミニ職員会（21） 保育士部会（21）	事務講座（1） 園内研修（対人援助：27） キャリアアップ研修（保護者支援：18） （障害児保育：17、18）（幼児保育：27） 特別な配慮を要する研修（21）
9月	歯科検診（歯科嘱託医：2） クッキー作り（3）身体測定（20） お月見会（13）避難訓練（22） 高齢者施設訪問（10）誕生会（25） お店屋さんごっこ（30）	看護師部会（4） 全体職員会（11） ミニ職員会（25） 保育士部会（25）	日常保育で活かせる研修（3） 事務講座（4） キャリアアップ研修（保健衛生：16～18） キャリアアップ研修（食育：22～23）
10月	消防設備点検（2）避難訓練（28） 保育実習受け入れ（7～） 芋ほり（8）ハロウィンパーティー（31） 園外保育（吉野公園：10） 身体測定（17）大根の種蒔き（16）	全体職員会（9） ミニ職員会（24） 保育士部会（24）	事務講座（1） 園内研修（保健衛生：17） キャリアアップ研修（保護者支援：27） （障害児保育：26～27）
11月	総合防災訓練（消防立会：11） スイートポテト作り（13） インフルエンザ予防接種（15） 玉ねぎの植え付け（20） 内科健診（嘱託医：20） 誕生会（8）身体測定（25）	保健部会（7） 全体職員会（13） ミニ職員会（26） 保育士部会（26）	事務講座（12） 特別な配慮を要する研修（実践：12） 園内研修（育ちのきほん：29）
12月	身体測定（17） 避難訓練（18）誕生会（20） クリスマスクッキング（24） クリスマスパーティー（25） 防犯訓練（警察立会：26）	全体職員会（11） ミニ職員会（25） 保育士部会（28）	事務講座（3）保育安全研修（広島：13） 企業主導型保育園協議会発足研修（東京：10） キャリアアップ研修（乳児保育：14～15） 園内研修（育ちのきほん：27） 子育て支援員現任研修：27）
1月	鏡開き（10） 羽根つき遊び（6～7） 避難訓練（16） 身体測定（22）誕生会（23）	全体職員会（8） 保健部会（10） ミニ職員会（22） 保育士部会（25）	子どもの貧困対策講演会（12） 認可外保育施設研修会（19） 児童福祉施設等研修会（20） 認可外保育施設向上セミナー（28） 園内研修（育ちのきほん：29）
2月	節分（3） 児童育成協会立入調査（4） 消防設備点検（10） 身体測定（17）避難訓練（21） 栄養士講話（25）	全体職員会（12） 保育士部会（24） ミニ職員会（26）	園内研修（感染症：5） キャリアアップ研修（保護者支援・障害児保 育：9）（乳児保育：19～21） 認可外保育施設向上セミナー（22） 保育所特別保育等研修（26～27）
3月	ひなまつり会（3）身体測定（16） フリーバード演奏会（11） お別れ遠足（17）避難訓練（21） 動画参観（23～28） 玉ねぎの皮むき（26）	保健部会（4） 全体職員会（11） 保育士部会（21） ミニ職員会（25）	